

# 建築都市コース

■ 建築学専攻

■ 都市システム科学専攻

## 1. スタッフ紹介（平成20年3月現在）

### <建築計画・都市計画>

上野 淳（うえの じゅん） 教授／工学博士  
建築計画，地域公共施設計画，環境行動研究，環境心理学  
9-869 室，042-674-2814 内線 4778

吉川 徹（よしかわ とおる） 准教授／博士(工学)  
都市計画，都市解析，地理情報システム  
9-868 室，042-677-2813 yoshikawa-tohru@c.metro-u.ac.jp

竹宮 健司（たけみや けんじ） 准教授／博士（工学）  
建築計画，環境行動研究  
9-874 室，042-677-1111 内線 4785 takemiya-kenji@tmu.ac.jp

鳥海 基樹（とりうみ もとき） 准教授／仏国博士(都市学)  
都市設計，都市計画，都市史  
9-867 室，042-677-2812

黒川 直樹（くろかわ なおき） 助教／工学修士  
西洋建築史，景観計画史，建築資産保全計画  
9-828 室，042-677-1111 内線 4764 el-negro@arch.metro-u.ac.jp

松本 真澄（まつもと ますみ） 助教  
住宅問題  
9-877 室，042-677-1111 内線 4788

### <建築歴史・意匠>

小林 克弘（こばやし かつひろ） 教授／博士(工学)  
建築意匠，建築設計，西洋建築史  
9-871 室，042-677-2816 or 042-677-1111 内線 4782

教授，山田 幸正（やまだ ゆきまさ） 教授／博士（工学）  
日本建築史，東洋建築史，保存  
9-870 室，042-677-2815 yyamada@tmu.ac.jp

小泉 雅生（こいずみ まさお） 准教授／工学修士

建築設計, 意匠設計, 設計論

9-872 室, 042-677-2817 koizumi@ecom.metro-u.ac.jp

木下 央 (きのした あきら) 助教/修士 (工学)

建築意匠, 建築歴史, 建築設計

9-827 室, 042-677-1111 内線 4763

### <建築生産>

深尾 精一 (ふかお せいいち) 教授/工学博士

建築構法, 構法計画, 構法設計

9-873 室 042-677-2818 sfukao@tmu.ac.jp

橘高 義典 (きつたか よしのり) 教授/工学博士

建築材料学, 仕上材料, コンクリート工学

9-775 室 042-677-1111 内線 4737 kitsu@tmu.ac.jp

角田 誠 (つのだ まこと) 准教授/博士(工学)

建築生産, 耐用計画, 資源循環システム

9-767 室, 042-677-2807 mtsunoda@arch.metro-u.ac.jp

門脇 耕三 (かどわき こうぞう) 助教/修士 (工学)

建築構法, 構法計画

9-826 室 042-677-1111 内線 4762 kkad@tmu.ac.jp

田村 雅紀 (たむら まさき) 助教/博士(工学)

建築材料学, 環境材料学, コンクリート工学

9-730 室 042-677-1111 内線 4726 masaki-t@tmu.ac.jp

### <建築構造>

芳村 学 (よしむら まなぶ) 教授/工学博士

鉄筋コンクリート構造, 耐震工学, 耐震設計

9-773 室 042-677-2800 myoshim@arch.metro-u.ac.jp

山崎 真司 (やまざき しんじ) 教授/工学博士

構造, 鋼構造, 構造設計

9-774 室 042 677 2798 yamazaki@arch.metro-u.ac.jp

北山 和宏 (きたやま かずひろ) 准教授/工学博士

鉄筋コンクリート構造, 耐震設計, 地震工学  
9-771 室, 042-677-2802 kitak@ecomp.metro-u.ac.jp

山村 一繁 (やまむら かずしげ) 助教/工学修士  
構造工学, 荷重・外力  
9-729 室 042-677-1111 内線 4725 kyamamur@arch.metro-u.ac.jp

見波 進 (みなみ すすむ) 助教/博士(工学)  
構造, 鋼構造  
9-727 室 042 677 1111 内線 4723 minami-susumu@c.metro-u.ac.jp

中村 孝也 (なかむら たかや) 助教/博士(工学)  
鉄筋コンクリート構造  
9-728 室 042-677-1111 内線 4724 takaya@ecomp.metro-u.ac.jp

### <建築環境>

石野 久彌 (いしの ひさや) 教授/工学博士  
都市環境, 建築環境システム, 建築環境学  
9-766 室 042-677-1111 内線 4747 ishino@tmu.ac.jp

市川 憲良 (いちかわ のりよし) 教授/工学博士  
建築環境工学, 給排水衛生設備  
9-770 室 042-677-1111 内線 4744 nichii@tmu.ac.jp

須永 修通 (すなが のぶゆき) 教授/博士(工学)  
建築環境学, 省エネ・自然エネルギー利用建築, 温熱快適性  
9-768 室, 042 677 2805, sunaga-nobuyuki@tmu.ac.jp

永田 明寛 (ながた あきひろ) 准教授/博士(工学)  
建築環境学, 熱湿気環境  
9-769 室 042-677-2804 ngt@tmu.ac.jp

中山 哲士 (なかやま さとし) 助教/博士(工学)  
都市環境, 建築環境システム, 建築環境学  
9-734 室 042-677-1111 内線 4732 nakayama@tmu.ac.jp

### <戦略研究センター>

青木 茂 (あおき しげる) 教授/博士(工学)

建築設計, 再生建築, リファイン建築, リファイニング建築  
9-772室 042-677-2801 内線 4742 [shigeruaoki@aokou.jp](mailto:shigeruaoki@aokou.jp)

### <都市空間システム>

中林 一樹 (なかばやし いつき) 教授/工学博士  
都市計画, 都市防災論, 都市復興論, まちづくり論  
9-553室 TEL: 042-677-1111 内線4272 [nakabasi@comp.metro-u.ac.jp](mailto:nakabasi@comp.metro-u.ac.jp)

玉川 英則 (たまがわ ひでのり) 教授/工学博士  
都市・地域解析, 都市・地域計画  
9-556室 TEL: 042-677-1111 内線4275 [htama@tmu.ac.jp](mailto:htama@tmu.ac.jp)

伊藤 史子 (いとう ふみこ) 准教授/博士(工学)  
都市計画, 都市解析, 住環境分析, プロジェクトの経済分析  
9-558室 TEL: 042-677-1111 内線4273 [itofumi@tmu.ac.jp](mailto:itofumi@tmu.ac.jp)

市古 太郎 (いちこ たろう) 助教/博士(都市科学)  
防災都市計画, 事前復興まちづくり, 災害リスク管理  
9-152室, (042)677 1111 内線 4231 [ichiko@comp.metro-u.ac.jp](mailto:ichiko@comp.metro-u.ac.jp)

### <都市社会システム>

星 旦二 (ほし たんじ) 教授/医学博士  
公衆衛生学, 都市健康科学  
9-565室 TEL024-677-2355 内線 4278 [star@onyx.dti.ne.jp](mailto:star@onyx.dti.ne.jp)

羽貝 正美 (はがい まさみ) 教授 / 法学修士  
都市行政, 都市政策, ガバナンス  
9-560室 042-677-2361 内線4163 [mhagai@comp.metro-u.ac.jp](mailto:mhagai@comp.metro-u.ac.jp)

饗庭 伸 (あいば しん) 准教授/博士(工学)  
都市計画, まちづくり, 都市計画制度  
9-566室 TEL: 042-677-2359 [aib@tmu.ac.jp](mailto:aib@tmu.ac.jp)

## 2. 研究概要

### <建築計画・都市計画>

【上野淳・松本真澄】

高齢者の地域継続居住の支援システムに関する研究

上野 淳, 松本 真澄

障害や痴呆を持ちながらも、高齢者が住み慣れた身近な地域で継続的に居住していくことのできる、地域条件、コミュニティー施設のネットワーク条件、住戸条件、高齢者施設の計画条件、等について多角的、包括的に研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 小規模高齢者支援施設における人間集合からみたサポート環境の在り方に関する研究
- 2) 小規模生活単位特別養護老人ホームにおける居住者の生活様態に関する研究
- 3) 小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究

多摩ニュータウンの再生・活性化に関する研究

上野 淳, 松本 真澄

開発・入居開始後30年を経過する我が国最大のニュータウンである‘多摩ニュータウン’をフィールドとし、その再生・活性化をめざす多角的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 多摩ニュータウン近隣センター商店街の再生・活性化に関する研究
- 2) 多摩ニュータウンにおける地域活動の系譜と展開
- 3) 多摩ニュータウンのNPO・高齢者支援スペースに関するケーススタディー

教育施設の建築計画に関する研究

上野 淳

教育改革や社会情勢の変化に対応して、学校施設の在り方にもドラスティックな改革の動きが見られる。主として公立小・中学校に焦点をあて、児童・生徒の生活・学習の実際やカリキュラム運営の実際などを丹念に取材調査し、その計画・デザインの指針をもとめる継続的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 統合新設の教科教室型中学校における学校運営の実態と生徒・教師の意識・評価
- 2) 小中一貫校の建築計画に関する研究
- 3) 活動場面の展開からみた学童保育施設の建築計画に関する研究
- 4) 幼保一体型施設の建築計画に関する研究

建築・都市空間における環境行動に関する研究

上野 淳, 松本真澄

都市施設、都市のオープンスペースにおける人間行動の法則性や特徴的な環境行動を丹

念な調査によって取材し、建築・都市空間のデザインに指針、知見を導く一連の研究。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 郊外型ショッピングモールにおける利用者の行動様態に関する研究
- 2) 月齢別の発達段階からみた乳幼児の保育環境に関する研究

分譲集合住宅の管理と再生に関する研究

松本 真澄

分譲集合住宅の再生を行うには、所有者や居住者の合意形成が重要であり、これは通常  
の管理形態・運営の方法に大きく関わっている。本年度は、初期の団地型の集合住宅を事  
例として、管理形態の変遷、所有権の移転状況などについて調査をおこなった。

#### 【吉川徹】

既存公共施設ストックを活用した地域施設ネットワーク最適配置手法の開発

吉川 徹

我が国では、社会の情報化、高齢化、成熟化により、既存公共施設を活用した公共施設  
ネットワーク再構成計画手法の開発が必要とされている。このため、多摩ニュータウンの  
最初期の開発地域を含む東京都多摩市を対象として、市の保有する公共施設ストックを活  
用した地域施設の最適配置手法を、分野間協力によって開発した。特に研究成果を広く社  
会に還元するための解説書を作成した。

地図配信 ASP を活用した地域情報共有プラットフォームの構築研究

吉川 徹、玉川 英則

本研究は、今後の我が国の成熟情報社会における地域情報共有の社会基盤整備に資する  
ことを目的とした。このため、地図配信 ASP を活用して、地方自治体・地域住民・各種団  
体が地域情報を発信・共有できる、低コスト・柔軟・オープンなプラットフォーム構築の検  
討を行い、自治体、住民の参加による実証実験を行った。特に、メールを活用した簡易な  
情報登録システムを開発した。

#### 【竹宮健司】

精神科患者の社会復帰施設支援態勢・環境に関する研究

竹宮健司

2006 年度から施行された障害者自立支援法では、精神病院の基準病床削減目標を掲げて  
いるが、現実には社会復帰支援施設が少なく、また支援態勢も充分とはいえない。本研究  
では、先駆的な実践を行っている医療法人を対象に精神科医療施設の受療行動（病棟移動・  
転院等）および病棟の利用実態を詳細に把握した。また、精神科病院を退院患者の利用す  
るデイケア・デイナイトケアの利用状況を把握し、これからの社会復帰支援態勢・環境の  
基礎的知見を得ることを目的としたケーススタディを行った。

乳幼児期を対象とした子育て支援施設の建築計画に関する研究

竹宮健司

少子化・核家族化の進んだ都市部において、乳幼児期の子育て支援のあり方が模索されている。先駆的な取り組みを行っている武蔵野市では、乳幼児期の親子を対象とした新しいタイプの子育て支援を設立し、新たな支援の場を提供している。本研究では、同市の先駆的な乳幼児期の子育て支援施設の利用実態を把握し、今後の子育て支援施設の建築計画に関する知見を得ることを目的に、同施設に於いて利用者記録調査、観察調査、利用者へのヒアリング調査、等を行った。

#### 高齢期の居住環境整備に関する研究

竹宮健司

高齢者が住み慣れた地域や居住施設に住み続けられるためには、介護のみならず医療サービスの提供も重要な要因となる。しかし、高齢期に必要な医療・介護サービスを受けつつ安心して暮らし続けることのできる高齢者居住施設の利用実態や建築計画に関する蓄積は少ない。本研究では、医療機能を付加した有料老人ホームを対象に、利用者に必要な医療・介護サービスの経年的な実態を明らかにするためのケーススタディを実施し、実証的な知見を整理した。

#### 【鳥海基樹】

##### フランスに於ける都市景観の保全的刷新に関する研究

鳥海基樹

2004年に制定された景観法の広範かつ円滑な運用のため、フランス、とりわけパリを中心として如何なる手法で景観の保全的刷新がなされているかを研究する。

##### フランスに於ける中心市街地活性化に関する研究

鳥海基樹

2006年に改正が予定される都市計画法と中心市街地活性化法の基礎的調査として、フランスに於ける集団規定や商業都市計画、さらに住宅政策を研究する。

##### ヨーロッパ諸国の歴史的環境資源の保全的刷新に関する研究

鳥海基樹

2005年に実施される愛知万博の後処理に貢献するため、リスボン万博とハノーヴァー万博の施設の再利用状況を研究する。

#### 【黒川直樹】

##### アメリカ建築史および景観計画史に関する研究

黒川直樹

建築史研究では従来の対象建物の歴史的評価と併せて、その今日的意味づけと建築資産の最適再利用が近年切迫している。本研究では同分野で先行し事業実績を挙げつつあるアメリカを対象に、南アメリカとカナダも一部含めて、とくに近現代商業ビルの再生計画をめぐる最新動向に関して現地調査結果を発表した。



## <建築歴史・意匠>

### 【小林克弘・木下央】

近現代建築の構成手法に関する分析

小林克弘，木下央

建築意匠研究の目標のひとつは、建築美を生み出す諸造形原理を明らかにすることにある。そのためには、優れた建築作品を分析することによって具体的な造形原理を抽出し、更にそうした原理が作品に適用される際の具体的な設計手法を考察することが極めて有効となる。この「近現代建築の構成手法に関する分析」という研究テーマは、近代以降の建築の中で、特に幾何学形態や明確な構成意図を備えた作品を対象として、その構成原理を具体的に分析・考察する。2007年度は、ルイス・サリヴァンフェリックス・キャンデラなどの建築作品を対象とした分析を行った。それまでの研究の成果の一部を2007年度日本建築学会大会や日本建築学会計画系論文集などに発表した。

建築設計手法の開拓

小林克弘，木下央

建築意匠研究においては、研究によって見出した建築の造形原理や構成手法を実際の建築設計に応用することによって、理論と実践、基礎研究と応用とを結び付けることも大きな目標のひとつである。研究室として、年に数件の建築実施設計競技に取り組むことを通じて、また、具体的な実施プロジェクトを通じて、新たな建築設計手法、建築デザイン手法の開拓を目指す。本年度は中国・深川市で行われた国際設計競技へ参加し、また、オフィスビルから共同住宅にコンバージョンを行う具体的プロジェクトに取り組み、研究を通じて見出した成果を実際の建築設計に応用することの有効性を検証した。

建築ストックの活用に関する意匠的研究

小林克弘，木下央，三田村哲也

既存建築を様々な更新活用方法を考案することは、建築界の重要なテーマのひとつとなっている。首都大学東京大学院建築学専攻では、2003年度から文部科学省21世紀COEプロジェクト「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」に取り組んでおり、このテーマに対する建築意匠・建築設計の視点からの取り組みとして、用途変更（コンバージョン）による建築ストック活用の具体的ケーススタディや海外におけるコンバージョン・改築事例実地調査結果に基づく分析を行っている。2007年度には、この数年の海外事例調査の成果を単行本としてまとめた。

17世紀末から18世紀初頭の英国における建築と都市デザインに関する研究

木下央

17世紀後半、イギリスは大陸の古典主義建築の文化を積極的に吸収すると同時に、英国東インド会社の経済活動の拡大に伴い、それまで直接接することのなかった非西欧圏、特にインドや中近東の建築文化を知るようになり、その一部を吸収した。本研究では特に英国人がインドに建設した霊廟建築の様式的特徴に注目し、この時代にインドを訪れた建築

家サー・ジョン・ヴァンブラの建築作品を通して、非西欧圏の建築文化がいかに英国バロック建築に影響を与えたのかを明らかとすることを目的とする。

#### 【山田幸正】

ベトナム・ハノイの近代集合住宅の改善計画

山田 幸正, 藤江 創

ベトナムは1950年代以降、旧ソビエトなど社会主義諸国からの援助を受けながら、首都ハノイをはじめ主要都市において、国営の集合住宅団地を数多く開発してきた。高温多湿の亜熱帯性気候のなか、これらの集合住宅は、構造的にも、設備・機能的にも、また美観的にも大いに老朽化してきている。近年、資本主義的な市場経済を積極的に導入するドイモイ政策が進展するなか、個人の嗜好の多様化を反映して、住宅に対して改変への要求はかなり増大しているものと考えられる。本研究では、ハノイ建築大学と協力体制を確立し、住民たちによって醸成されてきた既存の住環境の価値を活かしながら、新たな価値や機能を付与した都市型集合住宅に改善するための計画手法を検討している。

アジアにおける伝統的な木造建築および集落に関する調査研究

山田 幸正

アジアの諸地域における伝統的な建築物や集落の多くは、近年の急激な経済発展のなかで、建築的な実態が明らかにされる以前に消滅しているという危機的状況にあり、それらを調査・研究し、その保存策を講ずることは急務とすべき課題である。こうした観点に立ってベトナムにおいて継続的に実施してきた伝統的民家および集落に関する調査の成果を踏まえて、本年度は北部ホアビン省に所在する少数民族の伝統的集落ザンモー村を対象に、その建築的な実態などについて調査するとともに、ナムディン省など旧ブイチュ教区における教会堂建築に関する調査・研究を実施した。

関東における近代和風建築の建築的な実態と保存に関する調査研究

山田 幸正, 大野 敏 (横浜国大), 大橋 竜太 (東京家政学院大学)

我が国の建築文化のうち、近世までの社寺や民家などの建築遺構については全国規模での調査がほぼ完了し、その概要が把握されているが、明治から昭和戦前までのものについてはいまだその建築史的な価値など十分に理解されているとはいいがたい。一方で、登録文化財制度の制定などによって、そうした建造物が身近な文化遺産として捉えられるようになり、保存修復さらには活用などが図られている事例が増加しつつある。こうした状況のなか、文化庁が実施する全国規模の調査の一環として、東京都による調査が平成18年度より開始された。今年度、筆者らは東京都内の町田市、多摩市、日野市、あきる野市、青梅市、日の出町などにおいて当該調査を実施した。また、栃木県小山市に所在する大正期と思われる商店・住宅建築の調査を行ない、その建築史的な価値を明らかにした。

イスラーム文化圏における歴史的建造物および都市に関する研究

山田 幸正

イスラーム文化圏に所在する多くの歴史的建造物は、建築技法上においても意匠上にお

いても、独特の卓越性をもつにもかかわらず、我が国ではいまだにその実態が十分理解されているとはいえない。それらの集合体である歴史的環境や都市性についても同様に解明されているとはいえない。そのようなイスラーム建築およびイスラーム都市に関する継続的な研究の一環として、本年度は、地中海東端に位置する歴史的な港町レバノン・サイダにおける近代の都市的変容の実態と旧市街の保存活用にむけた近年の取組みについて考察した。

#### 【小泉雅生】

都市及び建築における領域のアクセシビリティの研究

小泉雅生

住宅がいかに街に対して開かれるかという住宅と街との関係の分析を行い、さらに対象を一般化して建築と都市との関係へと考察を進める。住宅と街との接続方法や距離の作られ方、領域の配列、領域間の境界の強度などの分析を通じ、都市的なレベルでの領域のアクセシビリティを考慮した建築設計手法の研究・開発を行い、実地に応用をはかっていく。

家族像の変化に基づく住居の変化の研究

小泉雅生

高齢化・少子化・離婚率の上昇などにより、家族像が大きく変わりつつある。にもかかわらず、その器である住居については、殆どが旧来の核家族を想定した平面計画のままである。そこで現代の日本社会における家族形態・家族像の分析をベースに、実際の居住形式や住居の変化の分析を重ねあわせ、新しい住居のあり方を模索する。その一つの可能性としてコレクティブハウジングを取り上げ、具体的な設計提案を行う。

### <建築生産>

#### 【深尾精一・門脇耕三】

高度経済成長期に建設された公共集合住宅の活用手法に関する研究

深尾 精一，門脇 耕三

高度経済成長期に建設された公共集合住宅は、多くが改修を必要としている。本年度は、ヨーロッパおよび日本における公共集合住宅の改修実態調査を行い、その成果の一部を、「団地賦活事例集」としてまとめた。また、集合住宅の戸別改修の実態について調査を行い、工程分析等を行った。

集合住宅の建設方式に関する研究

深尾 精一，門脇 耕三

集合住宅の新たな建設方式として、躯体と内装・住戸内設備等を明確に分離するSI住宅が注目されているが、その構法について研究を進めた。本年度は、主に集合住宅住戸の水廻りを対象とし、実態調査により、その配置と躯体の特徴の関係を明らかにした。また、集合住宅のバルコニーの実態調査を行い、その特徴の時代的変遷を明らかにした。

#### 戸建て住宅の改修実態に関する研究

深尾 精一，門脇 耕三

我が国の戸建て住宅は，欧米諸国に比してその寿命が短いことは以前から指摘されてきたが，建築ストックの活用に関する意識が高まりつつある現在，戸建て住宅に適切な改修を加え，長期に渡って使用しようとする動きも活発になりつつある．本年度は，戸建て住宅の外壁改修の実態調査に基づき，その改修周期や改修要因を統計的に推定し，その結果を日本建築学会計画系論文集などに発表した．

#### 【橘高義典・田村雅紀】

#### 建築物外壁面の美観維持に関する研究

橘高義典，田村雅紀

壁面の傾斜角度が外壁面の汚れに影響を与える点に着目し，3次元形態のスタイロフォームを用いて屋外暴露試験を行い，汚れによる明度差の変化を汚れ度として評価した．結果，壁面の角度と明度差による汚れとの関係に関わる基礎的特性が明らかになるとともに，外壁面の汚れ制御設計の考え方が具体的に示された．

#### 磁力により繊維を配向させた鋼繊維補強モルタルの基礎的物性に関する研究

橘高義典，田村雅紀

外殻プレキャストコンクリート製品やコンクリート補修用モルタル等に混入する短繊維を想定し，コンクリートに生じるひび割れの発生・進展の抑制を目的として，引張抵抗性を保持しやすい方向に対して磁力により配向性を持たせた鋼繊維補強モルタルを作製しその基礎的物性を評価した．結果，磁力および付与する速度の程度により配向性の程度は変化し，コンクリートの力学特性などの基礎物性の改善が期待できることが示された．

#### 金属系多孔パネルを組み合わせた緑化壁面の印象評価に関する研究

橘高義典，田村雅紀

都市部ではヒートアイランド現象の緩和を目的に屋上緑化が推進されている．本研究は，近年は壁面に関しても同様の検討がなされている状況を考慮して，壁面緑化基盤材に意匠的な効果が期待される金属系多孔パネルを組み合わせた上でいくつかの緑化壁面パネルを実際に作製し，植生が繁茂した程度を考慮した壁面パネルの外装印象に関して官能検査により評価をした．

#### 【角田誠】

#### 公共建築ストックの有効活用に関する研究

角田 誠

公共施設では住民のニーズに対応するための継続的な建設活動が必要となるが，新たな施設の建設の一方で，余剰となった既存施設も数多く見られる．これらの既存施設の有効活用は，行政財産の維持・向上だけでなく，さらなる地域サービスの提供においても極めて重要な課題となる．本年度は，市町村合併により本庁機能を失った旧本庁舎を対象とし，既存の空間の可変性を把握した上で，部分転用時に検討すべき建築的項目を抽出した．ま

た、転用計画の立案から決定に至るまでの意思決定プロセスの解明を行い、計画の実施に影響を与える機能的要件を抽出した。これらから、旧本庁舎の部分転用の企画段階における、建築的条件および機能的条件を併有した検討プロセスのあり方を提示した。

#### コンバージョン設計手法に関する研究

角田 誠

ストック有効活用手法の一つであるコンバージョンは、既存建築物が設計条件に加味されるため、新築における設計手法に比べ、その内容に大きな制約がある。一方で、近年では将来的な用途変更の可能性を視野にいれ、空間に余裕を持たせて建築物を設計するという考え方が徐々に増加しつつあることも事実であるが、現実的な問題として具体的な将来用途は想定しづらいため、現在用途・将来用途の双方にとって有効である空間創出には限界があるといわざるを得ない。本年度は、コンバージョン事例で見られるストック活用手法から、特に留意すべき事項を導き出し、将来用途に対し含みを持たせ建築を計画・設計する方法論の要件を提示した。

#### 住宅ストックの持続的改善に資する地域住宅生産組織に関する研究

角田 誠

最近では、簡単な補修からグレードアップまで、様々なリフォーム工事が積極的に消費者に提供されている。このようなリフォーム需要の高まりの中で、それを支える工事業者の形態の変化も著しいものがある。しかし、工事業者形態の多様化は消費者の選択肢の幅を広げた一方で、業者選びの難しさや悪徳業者の横行など消費者に混乱を招き、不安をおおっており、住宅を長きに渡り運用するという視点に立つならば、従来のように身近にある専門的な作り手と消費者との継続的な信頼関係の構築は有用である。特に、リフォーム工事の特徴である工事規模の小ささや、緊急性を要する工事などにおいても、業者の高い地域密着性は消費者にとっても大きな利点となる。

本年度は東京都多摩市を対象に、新築からリフォームへの需要の移行や、住宅工法や生産組織が変化する中での取引業者や顧客の地域属性の分析から、専門工事業者の地域密着度の実態、業務形態や仕事内容を明らかにした。また、今後より効率的にこれらの業者が住宅維持管理業務に携わる上で必要な要素を抽出した。さらに、今後求められる建築専門工事業者の住宅維持管理における役割と参画方法について、地域性に着目しながら具体的モデルとして提示した。

### <建築構造>

【芳村学・中村孝也】

破壊曲面縮小の概念に基づくせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の定量的損傷評価

芳村学

古い RC 建物に多いせん断破壊型柱の損傷状態を把握するため、想定する水平変形を受けたあとの「残存水平耐力」や「残存鉛直耐力」といった、柱の損傷状態の定量的評価に

ついて検討した。破壊曲面縮小の考え方を用いて、せん断破壊以降の残存水平耐力と残存鉛直耐力の関係を導き、次に、この関係と定式化された水平力-水平変形関係を用いて、想定する水平変形に対する残存水平耐力と残存鉛直耐力を求め、柱の損傷状態について考察した。

#### ペンシルビルを対象とした建物外部から施工可能な耐震補強技術

芳村学，中村孝也

大都市中心部には、開口方向に1スパンで搭状のペンシルビルが多く見られる。ペンシルビルは、桁行方向には妻壁があり十分な耐震性能を持つため、開口方向のみを補強すればよいという特徴がある。このような特徴を考慮して開発されたのが、定着型補強筋工法である。定着型補強筋工法とは、既存の柱に対して建物外部片面から削孔し、モルタルをグラウトしたあとに両端に定着部を持つ定着型補強筋を挿入するものである。丸鋼を用いた既存柱に対して本方法による補強を施した場合の補強効果を、実験により確認した。

#### 中間層崩壊に対する建物層数の影響

中村孝也，芳村学

せん断破壊型 RC 柱の崩壊に関する実験結果を用いた地震応答解析により、RC 系建物の中間層崩壊について検討した。兵庫県南部地震における中間層崩壊の被害7層から10層の建物に多かったことから、それらの建物を想定した9層建物モデルを設定し、崩壊層の最大変形について主に6層、3層建物と比較した。その結果、崩壊層の $I_s$ 値が同じであっても、6層、3層建物に比べて9層建物の変形が大きくなる傾向があり、9層建物の中間層の安全性がより低いと考えられること、等がわかった。

#### サブストラクチャ擬似動的実験によるせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の崩壊実験

中村孝也，芳村学

旧基準により設計されたせん断破壊型 RC 柱を崩壊まで加力する擬似動的実験を行い、柱の動的崩壊性状を検討した。実験は低層建物の応答性状を把握する意図から、3層建物の最下層を実験部分とするサブストラクチャ法により行った。構造耐震指標 ( $I_s$  値) を 0.49 とした実験により、崩壊に至る地震動レベルや、動的な崩壊過程を明らかにした。また、本実験結果を復元力特性に適用した地震動等解析を行い、実験との適合性を検証した。

#### 【山崎真司・見波進】

#### 履歴ダンパーを用いた連結制振構造の地震応答低減効果

山崎真司，見波進

連結制振構造は異なる振動特性を持つ複数の建物をエネルギー吸収機構（ダンパー）を用いて接続し、地震応答を低減する手法である。本研究では、2棟の一自由度系を履歴ダンパーで連結した振動モデルを対象として、連結制振構造の並進振動の性状について応答解析により包括的な傾向を明らかにした。制振効果は最大変位比すなわち非連結時の最大変位に対する連結時の最大変位を以て評価した。最適ダンパー条件や建物組合せの影響について検討し、制振効果を予測する方法を提案した。

## 鋼梁のエネルギー吸収能力に及ぼす繰返し载荷の影響

山崎真司，見波進

既存の超高層建築に用いられている幅厚比の鋼梁を中心に，様々な繰返しパターンでの載荷実験を行った．主に局部座屈で終局状態が決る場合を対象として，塑性繰返し数とエネルギー吸収量の関係について検討し，繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力を定量的に予測する方法を提案した．

## 多層骨組の重力による進行性崩壊

山崎真司，見波進

進行性崩壊はある層が何らかの原因により崩壊した場合に，連鎖的に崩壊が進行していく現象である．崩壊による上層部の運動エネルギーを下層部の歪みエネルギーで吸収できれば全体崩壊は免れる．各層の吸収可能な歪エネルギーとその層が崩壊した場合に解放される位置エネルギーの関係より，エネルギー比を定義した．多層骨組を対象に鉛直方向の動的応答解析を行い，エネルギー比と崩壊層数の関係を明らかにした．

### 【北山和宏】

## 水平二方向地震力を受ける PRC 立体部分骨組の耐震性能評価

北山和宏

鉄筋コンクリート(RC)構造とプレストレスト・コンクリート(PC)構造の中間的な性質を持つプレストレスト鉄筋コンクリート(PRC)構造の立体柱梁十字形部分架構試験体2体(試験体 JD-3 および JD-4) に対して，圧縮一定軸力下で水平二方向載荷する実験を行った．またそれぞれの立体試験体に対応する平面十字形柱梁接合部試験体2体(試験体 JP-1 および JP-2) にも正負水平力交番載荷実験を行った．実験変数は PC 鋼材を配置するシース管の表面形状であり，標準的な#1040 のものとそれよりもリブの間隔が小さくかつリブ高さも大きい#3040 (単位長さあたりの支圧面積比で#1040 よりも 4.7 倍大きい) を使用した．コンクリート圧縮強度は 77.2MPa，グラウト圧縮強度は 65.3MPa であった．柱には一定圧縮軸力(軸力比 0.10) を与えた状態で，柱頭に直交して取り付けられた二基の水平ジャッキによって，柱頭の描く軌跡が八の字形になるように二方向水平力を与えた．梁には上端・下端に普通鉄筋 4-D25 ずつを配するとともに，異形 PC 鋼棒 2-D22 を配筋した．終局プレストレス率は 0.27 である．

実験では平面柱梁部分架構試験体は2体とも柱梁接合部パネルがせん断破壊した．それに対して水平二方向載荷した立体柱梁部分架構試験体では接合部入力せん断力が平面試験体よりも 12%増大し，シース管に#1040 を用いた試験体では柱曲げ降伏後に接合部せん断破壊を生じ，#3040 を用いた試験体では柱梁接合部パネルのせん断損傷は見られたが柱曲げ破壊を生じた．

シース管の表面形状が部分架構の力学挙動に与える影響は，最大耐力までは平面，立体試験体ともにほぼ同様であったが，#1040 を用いた場合には最大耐力後の接合部せん断力の低下が顕著であった．また#3040 を用いるとシース管と周辺コンクリートとの付着が良好に保持されると考えられるが，その作用によってせん断破壊した接合部パネルの水平方

向の膨張をより抑制することが示された。

## 梁曲げ破壊する PRC 平面部分骨組の耐震性能に関する研究

北山和宏

梁曲げ降伏が先行する PRC 平面十字形柱梁接合部試験体 4 体に正負水平力を交番载荷する実験を行い、シース管へのグラウトの有無およびシース管の表面形状 (#1040 および #3040) が単位架構の耐震性能に与える影響を検討した。コンクリート圧縮強度は 77.2MPa, グラウト圧縮強度は 65.3MPa であった。柱には一定圧縮軸力 (軸力比 0.10) を与えた。梁には上端・下端に普通鉄筋 2-D13 ずつ (試験体 UB-1, GB-2, SB-3) あるいは 3-D13 ずつ (試験体 GBS-4) を配するとともに、異形 PC 鋼棒 2-D22 (試験体 UB-1, GB-2, SB-3) あるいはウルボン筋 3- $\phi$ 12.6 (試験体 GBS-4) を配筋した。終局プレストレス率はそれぞれ 0.77 あるいは 0.55 である。

アンボンドの試験体では PC 鋼材は降伏せず、梁主筋は他の試験体よりも早い梁部材角 0.25% で降伏した。最大耐力は梁付け根コンクリートの圧壊によって決まり、グラウトを施した試験体よりも 4% から 8% ほど小さかった。繰り返し载荷による梁付け根コンクリートの圧壊が顕著であり、梁主筋の座屈とその後の破断が観察された。

#1040 あるいは #3040 のシース管を用いてグラウトを施した 2 体では、梁部材角 0.35% から 0.50% で梁主筋が降伏し、0.68% から 0.69% で PC 鋼材が降伏した。梁付け根コンクリートの圧壊は生じたが、アンボンドの試験体と比べるとその発生は遅かった。また周辺コンクリートとの付着が良好である #3040 のシース管を用いることによって、#1040 の場合と比べてコンクリート圧壊の兆候および圧壊によるコンクリート剥落が遅延された。

PC 鋼材としてウルボン筋を梁断面内に 3 本配置した試験体 (GBS-4) では、梁主筋および PC 鋼材が降伏した後、梁部材角 2.7% 程度で上下の PC 鋼材が順次破断して耐力が急激に低下した。

## PC 構造内の PC 鋼材-グラウト-シース-コンクリート間の付着性能に関する研究

北山和宏

プレストレスト・コンクリート (PC) 構造の柱梁部材の力学特性を精度よく評価するためには、PC 鋼材から周辺コンクリートへの応力伝達機構を把握することが重要である。その際、PC 鋼材-グラウト材-シース管-コンクリートという 4 つの物体の間に存在する 3 つの付着破壊界面を有する複雑系を検討対象とすることが不可欠となる。そこで、これらの界面における基本的な付着伝達機構を、コンクリート塊に埋め込んだ PC 鋼材の単調引き抜き実験および非線形三次元有限要素解析によって詳細に検討した。

実験では 150mm 角のコンクリート直方体 (スパイラル筋によって補強) に埋め込んだ PC 鋼材を油圧式万能試験機によって単調に引き抜いた。実験変数はコンクリート圧縮強度 (58.8MPa, 88.8MPa), シース管の有無とその表面形状 (1000 番台, 3000 番台), グラウト圧縮強度 (53.4MPa, 86.6MPa), 埋め込む鋼材の種類, 径および降伏強度 (異形鉄筋 [D13 から D25, SD295 から SD685], ネジ鉄筋 [D22], ウルボン筋 [ $\phi$ 9 から  $\phi$ 12.6]) である。

実験では PC 鋼材とグラウトとの界面で付着破壊が生じたが、グラウト・キーが直接せん断破壊する場合の付着強度は、RC のときのそれとは大きく異なることを指摘した。ねじり



フシを有するウルボン筋を引き抜く実験では付着力とすべり量との関係において複数のピークが存在することを示した。

FEM 解析は三次元非線形有限要素解析プログラム FINAL を用いて行った。鋼材、グラウト、シース管およびコンクリートは全て 8 節点アイソパラメトリック立体要素を用いてモデル化した。この解析では各界面での付着伝達を、ボンド・リンク要素を使用することなくコンクリートや鋼材といった各要素の接触で表現することを試みた。その結果、解析による付着強度は実験結果とよく一致した。ただし最大強度時のすべり量など変形性能は実験とは大きく異なった。これは鋼材とコンクリートとの付着作用を弾性体（具体的には鋼材のフシとコンクリート）の接触によってモデル化したためにやむを得ない結果である。さらにグラウトおよびコンクリートの内部応力状態、グラウト材の膨張によってシース管に発生するフープ・テンションなどを詳細に調査し、付着破壊面の遷移が生じる可能性を指摘した。

下階壁抜け柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施した RC 立体骨組の地震時挙動に関する実験研究

北山和宏

既存 RC 建物における下階壁抜け柱の圧縮軸耐力不足の際には、軸崩壊防止のための補強を兼ねて連層鉄骨ブレースを当該柱に隣接して設置することがよく行われる。この場合、鉄骨ブレースと直交する方向の水平力により下階壁抜け柱の軸力が大きく変動する。また下階壁抜け柱は鉄骨ブレースからの軸力変動を受けるため、鉄骨ブレースによって下階壁抜け柱の軸崩壊を加速させることも生じ得る。そこで下階壁抜け柱に隣接して連層鉄骨ブレース補強を施した RC 立体骨組試験体 1 体に対して、鉛直・水平二方向の計三方向の外力を与える静的実験を実施した。

試験体は実物の約 1/4 スケールで桁行方向の中央スパンを連層鉄骨ブレースで補強した 2 層（階高 800mm）の RC 立体骨組である。桁行方向は 3 スパン、張間方向は 1 スパンで、スパン長はともに 1000mm である。張間方向には下階壁抜けフレームを設け、鉄骨ブレースが取り付け 1 層柱を下階壁抜け柱とした。試験体の破壊モードは全体曲げ破壊とした。コンクリート打設は試験体を鉛直に維持した状態で、層ごとに打ち分けることなく一気に行った。その圧縮強度は 36.3MPa であった。

連層鉄骨ブレースを含む桁行方向中央スパンに 160kN の一定圧縮軸力を負荷したまま、桁行および張間方向にそれぞれ水平力を与えることにより加力を行った。破壊が進んだ実験後半では張間方向の頂部変形角を 1% に維持したまま（下階壁抜け柱が圧縮側となる方向）で、桁行方向に頂部変形角 1% から 3% まで繰り返し載荷した。

実験では連層鉄骨ブレースが全体曲げ破壊した。鉄骨ブレース脇の RC 付帯柱には全体曲げによる多数の輪切り状ひび割れが発生し、頂部変形角 0.5% で全主筋が引張り降伏した。また 1 層脚部コンクリートの圧壊が激しく頂部変形角 2% 以降に耐力低下が見られ、繰り返し載荷によって柱主筋の座屈および破断が生じた。下階壁抜け柱には二方向水平力載荷による軸力変動によってせん断ひび割れが発生したがせん断破壊することはなく、脚部コンクリートの圧壊状況も目視では他方の RC 付帯柱との差異は観察されなかった。ブレース底部の基礎梁にはアンカー筋の引き抜きによる水平なひび割れが発生した。張間方向の直

交梁には連層鉄骨ブレースに対する抑え込み効果によるせん断ひび割れが多数観察された。また2層耐震壁にも同様のせん断ひび割れが発生した。

連層鉄骨ブレース脚部のアンカー筋には水平せん断力とともに全体曲げ破壊による引き抜き力も作用しており、特にブレース斜材の交点直下のアンカー筋の引張りひずみは降伏直前まで進展した。このことは連層鉄骨ブレースが全体曲げ破壊するときのアンカー設計に対して、従来とは異なる設計手法が必要になる可能性を示唆している。本実験における立体骨組全体の力学挙動の把握、下階壁抜け柱に作用した軸力およびその変形性状などとともに今後さらに検討する必要がある。

連層鉄骨ブレースで耐震補強した鉄筋コンクリート平面骨組の三方向外力下での耐震性能に関する解析研究

北山和宏

連層鉄骨ブレース補強したRC平面骨組試験体に一定圧縮軸力および二方向水平力を載荷した静的実験(2006年度実施)を対象として、全体曲げ破壊する鉄骨ブレース付きRC部分骨組の力学特性を詳細に調査するため、非線形三次元有限要素解析(FEM)を実施した。FEM解析には大林組開発のプログラムFINALを使用した。

実験では、連層鉄骨ブレースを含むRC部分骨組が全体曲げ破壊するときの水平耐力および変形性能ともに、水平一方向載荷した場合と比較して低下することを示した。水平二方向載荷によるこのような耐力および変形性能の低下の原因として、ブレース付帯柱の1層危険断面における二軸曲げの影響が大きいことを実験結果の詳細な分析から示すとともに、非線形三次元FEM解析によって詳細に検討した。解析ではブレース脚部のアンカー筋の抜け出し挙動を実験結果に基づいてモデル化した。FEM解析では圧縮側ブレース付帯柱の危険断面隅角部でのコンクリート圧壊が、引張り側付帯柱の全主筋が引張り降伏した頂部変形角0.25%時に発生した。水平一方向載荷したFEM解析では頂部変形角1%で付帯柱脚部コンクリートの圧壊が生じたことと比較すると、水平二方向載荷時に二軸曲げを受けるRC付帯柱の脚部コンクリート圧壊が早期に生じることを確認した。

#### 【山村一繁】

常時微動測定に基づく中高層鉄筋コンクリート造建物の振動特性評価

山村一繁

中高層鉄筋コンクリート造建物は、数多く建てられており、様々な解析がなされているが、地震観測や振動測定の例は少なく、理論の実証がなされているとは言い難い。そこで、常時微動測定を行い、その振動特性を把握し、微小振動レベルでの理論値との比較検討を行った。その結果、1)直接基礎の場合、短辺・長辺の両方向でロッキング振動が生じ得ること、2)固有振動数については、既往の研究式と良い対応を示すこと、3)減衰定数は地盤の影響を大きく受けることなどを明らかにした。

事務室用積載荷重の空間分布モデル

山村一繁

現在の指針では、積載荷重は等価等分布荷重として与えられており、新しい構造や構法

への対応が難しい。そこで、積載荷重を荷重強さの空間分布として捉えることで、建物によらない形での荷重の定義付を試みた。自己回帰過程をもちいることで、目的のモデル化が可能であることが明らかになった。また、建物ユーザに積載荷重に関する理解を深めてもらうため、荷重状態を可視化する方法について検討を行った。家具の配置パターンや、応力状態の等値線を用いることで、積載荷重の分かりやすい表現が可能となると考えられる。

## <建築環境>

【石野久彌・中山哲士】

シーリングファン併用空調システムの計画手法と性能検証

石野久彌, 永田明寛

事務所建築において自然換気と空調ならびにシーリングファンの併用によるハイブリッド空調換気システムの性能実証であり、本研究は気流感によって快適性を補うことを目的として設置されたシーリングファンによる気流分布性状、空調負荷削減効果ならびに気流間を付加した空調を行うオフィスにおける執務環境の快適性について明らかにした。本研究は日本建築学会環境系論文集第 620 号に発表した。

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール「BEST」の開発

石野久彌

現在日本には公開された建築環境プログラムは殆どない。アメリカのエネルギー省に登録された世界のプログラムは 400 弱あるが、日本発はまだない。そこで古くなったプログラム HASP などを最新版にし、次世代に引き継げる設計用、研究用、行政支援用の大型建築環境解析プログラムの開発に 3 年前から着手し徐々に完成に向っている。特徴はオブジェクト指向プログラム、建築・空調・電気・衛生統合プログラム、e-simulation、国際化、行政支援ツール、実用的 GUI、ソフトウェアのアジャイル開発などである。仙台での空衛学会大会で 1~18 報を発表した。現在正に進行中である。

夏季 28℃・冬季 20℃室温における着衣と熱的快適性に関する研究

石野久彌, 中山哲士

近年、室内の設定温度を夏季は 28℃、冬期は 20℃とすることによって省エネルギーを測ることが国の施策として進められている。そのような環境下においては居住者が着衣を調整することによって快適性を得る必要がある。従来は居住者の着衣を固定しこれに見合う快適な室内環境の実現を目指した研究が多くなされてきたが、本研究では上記の環境下に適した衣服の組み合わせを被験者およびサーマルマネキンによる実験などにより明らかにするものである。本研究結果は建築学会論文集第 618 号、第 625 号に発表した。

都市気候・気象データ特性に関する研究

中山哲士, 石野久彌

都市気候は都市の形態、土地被覆、産業活動その他種々の要因によって形成されている。

本研究では継続的に気象データの計測を行い、長期間のデータを元に特に日射量や紫外放射量、分光放射特性について解析を行った。また、実際の市街地においても都市気温分布に関する実測調査を行い、その状況を明らかにしている。平成19年度は国分寺市における都市計画道路予定地周辺の冬期早朝の外気温度分布測定を実施した。

#### 【市川憲良】

建物内における最適給水システム構築のための検討

市川 憲良

受水槽方式は、主として中規模以上の建物の給水方式として採用されてきた。しかし直結給水の範囲拡大から、近年では10階程度の中規模建物に対して直結増圧給水方式が導入されるようになった。また、5階程度までの建物に対しても、直結直圧給水方式も採用されつつある。両給水方式は、多くの利点を有しているが、今後、検討しなければならない問題点は多くある。本年度は、計画瞬時流量、水質、及び集合住宅の更新を考慮した給水システム等について検討した。これらの成果は日本建築学及び空気調和衛生工学会大会などへ発表している。

循環式浴槽におけるレジオネラ感染防止に関する研究

市川 憲良

レジオネラ感染事故は、循環式浴槽システムを採用している施設で多く発生している。その防止対策として、浴槽水のろ過方法と消毒方法をはじめ、システム的な構造に対する抜本的な見直しの必要性が指摘されている。本年度は、システムの構造及び浴槽内での残留塩素濃度の計測法とについて検討した。これらの成果は空気調和衛生工学会論文集などに発表している。

省資源・省エネルギーを考慮した水利用に関する研究

市川 憲良，前 真之（東京大学大学院），大塚 雅之（関東学院大学）

省資源、省エネルギーを考慮し、安定した水及び湯利用を確保するためには、水や湯の使用実態を明らかにした上で、節水の啓発をはじめ、計画的な水の多段階利用などに対して積極的に取り組まなければならない時代を迎えている。本年度は、住宅を中心とした節水機器に関する評価及び給湯使用量、ISO 環境基準などについて検討した。これらの成果は、日本建築学会論文集及び国際シンポジウムなどへ発表している。

#### 【須永修通】

快適な環境配慮型・自然エネルギー利用建築に関する研究

須永修通

地球環境保全のためには、建築分野では省エネルギーとともに自然エネルギーの活用が不可欠である。また、それらを考慮して設計された省エネ・自然エネルギー利用建築を広く普及させるためには、その実際の性能を明らかにすること、また、地球環境への影響や室内環境の快適性等を考慮した総合的な評価手法を整備する必要がある。

筆者は、『省エネ・自然エネルギー利用建築』と『人体の温熱快適性』を主なテーマとし

て、建築的要素の工夫によるパッシブデザイン手法、太陽熱などの自然エネルギー利用による室内気候調整、それらに関連する建築部材の開発、実在する環境共生建築の性能評価、並びに、建築、特に住宅の評価方法などに関する研究を継続的に行っている。

本年度は、これらに関して以下の研究・活動を行った。各々概要を示す。

#### 1. 中国の住宅建築のサステイナブル化（中国 西北工業大学 との交流協定）

西北工業大学 機械土木建築学研究科と首都大学東京 都市環境科学研究科との学術交流協定を平成19年8月2日に本学において締結し、特に「持続可能な建築・都市の研究」における相互協力を行うことになった。12月の西安市での調査・打合せにより、「中国の住宅建築におけるサステイナブル化の早期推進」を当面のテーマとして進めることとした。

#### 2. 学校建築のエコスクール化

a) アンケート調査：昨年行った日本全国のエコスクール認定校へのアンケート(約150校分)の解析を行い、環境共生手法やエネルギー消費量に関して分析した。その速報を日本太陽エネルギー学会で発表した。

b) 温熱環境実測：エコスクール認定校の温熱快適性について、一般校との違いを含めて実測調査した。夏季は北海道から沖縄までの気候区分6地域を、冬季は北海道から関東地域までの4地域を対象とした。

c) ナイトパーズの効果：換気扇を用いた夏季のナイトパーズ(夜間に通風・換気を行い建物内の温度を下げる)の効果について、実験的に実測を行い、その効果を明らかにした。H20年度の建築学会等に発表する予定である。

d) 学校建築関係法規：学校建築に関する建築基準法等の改訂について、他の分野の教員とともに検討を開始した。

#### 3. 断熱内戸による熱環境改善効果

既存住宅の窓の内側に高性能断熱材を用いた断熱内戸を設置する効果について、計算および実測により検討し、断熱内戸を設置するだけで、換言すると低いコストで、次世代省エネ基準に近い熱性能を得られることや、コールドドラフトの防止などによる高い快適性を得られることを明らかにした。H20年度の建築学会等に発表する予定である。

#### 4. 通風促進手法を採り入れた集合住宅における通風の効果

住戸内に複数の通風経路が出来るなど通風促進に配慮して計画・建設された集合住宅について、実測およびアンケート調査を行い、その効果を明らかにした。H20年度の建築学会等に発表する予定である。

#### 5. 環境配慮型建築の性能評価手法

居住者の温熱快適性に基づいて評価することで、空調を使用しない建築にも適用でき、居住者の着衣量変更などの環境調整行動も加味して評価できる室内環境評価方法について、建築学会論文集で発表した。本研究における一連の成果を博士課程学生が博士論文としてまとめた。

#### 6. 断熱改修の効果と問題点

本学21世紀COEプログラムで行ってきた断熱改修プロジェクトによる研究成果(充填断熱、内断熱、外断熱の事例から学んだこと)をまとめて、建築学専攻が主催したBSA2007国際会議で発表し、高い評価を得た。

#### 7. 緩衝空間の設置による室内環境改善

事務所建築から集合住宅に転換する実プロジェクト(本学 21 世紀COEプログラムのプロジェクトの一つ)などで、断熱性能や遮音性能などの改善のために、建築計画的に緩衝空間を設置することを提案した。また、その効果を、実測および詳細シミュレーションにより明らかにした。成果の一部をBSA2007 国際会議で発表した。

#### 8. IEA の Sustainable Solar Housing プロジェクト

昨年度までに執筆したハンドブック (BIOClimatic Housing -Innovative Designs for Warm Climates-) の最終校正を行った。この本は 12 月に出版されたが、序論、6 章、9 章を執筆している。

#### 【永田明寛】

住宅の熱湿気特性の同定に関する研究

永田 明寛

住宅の熱湿気環境の予測手法は、現在非常に発達してきているが、竣工後の性能把握・評価という側面はなおざりにされている。例えば、熱損失係数や日射取得係数は、住宅の省エネルギー基準でも基本的な熱性能指標として採用されているが、これは部材の熱性能がわかった上での計算にとどまっている。しかし、性能評価は実際の建物で行うのが本来であろう。建物全体ではなく部材ごとの熱貫流率の現場実測も大きな課題である。今年度は、面状発熱体と熱流センサーを用いた熱貫流率の現場測定法について、昨年度に引き続き実験室実験・現場実験により検討した。その他、壁内の断熱仕様探査に用いる材料識別センサーや改良型ニードルスコープの開発を行った。

温度荷重の簡易予測法に関する研究

永田 明寛

建築部材は、建設開始時から運用時、更に解体時まで温度変化に常時曝される。建築構造によっては、この温度変化による部材の変形や応力が無視できないオーダーになり、設計時に考慮しなければならないことがある。このような「建築物に荷重効果を発生させる温度」が温度荷重だが、部材の温度は外気温や日射量などの外界気象や室温の他、部材構成によっても異なるため一律に定めることができない。そのため、温度荷重を設定するためには、諸条件をもとに計算する必要がある。本研究では、ISO/TR 9492:1987, "Bases for design of structures - Temperature climatic actions" をベースに、気象データの整備や壁・柱・梁への適用法について検討を行っている。今年度は、柱・梁などを対象とした簡易予測プログラムの開発を行った。

### <戦略研究センター>

#### 【青木茂】

既存建物の長寿命化—ライフライン更新のシステムの研究

青木 茂

建築の再生においてライフラインの更新は最も重要な問題のひとつである。本研究では、住みながら再生におけるライフラインの更新手法の検討と実践を行った。今回の研究対象

は賃貸共同住宅であったが、このシステムを活用すれば、都市圏で問題視されている分譲共同住宅の住みながらリファインも実現できると考えている。

## <都市空間システム>

### 【中林一樹】

都市の防災と復興に関する計画論的研究

中林一樹

切迫する首都直下の地震に対して、東京を地震災害に負けない都市を事前につくるとともに、災害後は速やかに復興して安全で快適な都市に再生するための計画論について研究している。とくに都市復興については、東京都や区市と連携して事前復興対策手法（都市復興図上訓練・震災復興まちづくり模擬訓練）の開発と改良を進めているとともに、トルコ（マルマラ地震1999）・台湾（921台湾大震災1999）の復興過程・制度との比較研究も進めている。これらの研究は、市古太郎助教との共同での取り組みが多い。

住民主体の街づくりの仕組みと条例運用に関する研究

中林一樹

平時にはもちろん災害時にも、都市づくり・まちづくりに住民の主体的な参画は不可欠となっている。大都市地域の基礎自治体におけるまちづくり条例の制定とその運用について、市民街づくり推進会議（大和市）、街づくり審査会（町田市、多摩市）での議論等を通して、まちづくり推進方策を追求している。

### 【玉川英則】

都市空間モデルの基礎的特性に関する研究

玉川英則

線分上の確定的ハフモデルにより施設あるいは都市の圏域が決定されるというモデルには、いかなるインプリケーションが潜んでいるのかを明らかにした。各時点の施設規模が前時点の圏域に比例して決定されるという再帰的過程と、施設が必ずしも線分の端点にはないという後背地の存在を組み入れると、距離抵抗係数値の減少により一極集中・増加により分散が進むという大局的傾向以外にも、規模の逆転、小さな距離抵抗での併存等種々の興味深い現象が現れることが解明された。

都市空間の認知に関する研究

玉川英則、朴慶女（ソウル特別市）

都市内の住所表示の2つの体系である、街区方式と道路方式について、その検索に要する時間を比較実証分析した。日本人・韓国人それぞれに対して、ソウル特別市の一部の地区を対象として検索時間の実測を行った結果、国内で道路方式の住所が導入されつつある韓国人の場合でさえ、街区方式の方が検索に要する時間は短いことが明らかとなった。これは、市街地の複雑性が一因と推測される。

## コンパクトな都市形成に関する総合的研究

玉川英則，伊藤史子，市古太郎，大口敬（都市基盤工学専攻），吉川徹（建築学専攻），鈴木勉（筑波大学），佐土原聡（横浜国立大学）

応用的な研究として，コンパクトな都市形成に向けて種々の研究を行った．基礎理論の整理，現実の都市内でのコンパクト性の計測，エネルギー消費から見たコンパクトな都市のあり方，コンパクトな都市行政単位の提示，都市防災計画とコンパクト性の関連等の切り口で考察を行った．なお，この成果をまとめた学術図書を編集中であり，2008年度前半には出版される予定である．

### 【伊藤史子】

#### 住宅需要と居住地選択に関する研究

伊藤史子

本研究では，多様化する住宅需要の具体データの詳細な分析を通じて，転居行動における住居・居住地選択の要因を明らかにした．女性の消費生活に関するパネルデータ（（財）家計経済研究所）を用いて，ライフスタイル・生活意識・生活行動・居住環境に関する項目が相互にどのように影響しているかを明らかにした．

#### 不動産情報のあり方に関する研究

伊藤史子

我が国では住生活基本法が施行され，住環境向上や住宅ストック管理のため住宅市場を活用する方向へと住宅政策の大きな転換期を迎えた．このために必要不可欠な不動産情報の適切な提供について，本研究では検討を進めた．住宅政策で求められている不動産情報，施策取り組みと情報提供の現状，海外での情報提供現状などについて調査研究をおこない，不動産情報標準化と不動産情報提供要件に関する示唆を得た．

#### 公共プロジェクトの経済評価に関する研究

伊藤史子

本研究では，都市における様々なプロジェクトについて，経済的な手法で評価を試みる実証分析をいくつか行った．新潟市内の町屋建築の賦活更新に関する価値を仮想市場評価法により分析した．新潟県妻有地方の「大地の芸術祭」について，来訪者・地域住民にとっての価値を仮想市場評価法により分析した．新潟市政令市移行に伴う区割り設定代替案について住民の旅行費用に基づき分析した．いずれもプロジェクト実施のあり方に関する示唆を得た．

### 【市古太郎】

#### 首都直下地震リスク軽減化のための地域計画策定技術の研究

市古太郎

首都直下地震の被害は建物全壊全焼戸数で見れば阪神淡路の約5倍（内閣府 M7.3，風速15m）と想定されている．死者や負傷者といった直接被害だけでなく，住宅や生活環境といった間接被害についても被害軽減化戦略を立て，事前の取り組みに反映していくことが不



可欠である。そのため本研究は、都市計画の視点から、地区まちづくり計画技術を構築する。

平成19年度は前年度に引き続き、東京都都市整備局が主催する「都市復興図上訓練」に運営協力し、計画策定手法についての検証をおこなった。また参加者である行政職員が、実際に地域協働型で復興を進める上での課題についてアンケート調査等を行った。

#### 事前復興論に基づく震災復興まちづくり模擬訓練手法の開発

市古太郎，中林一樹，饗庭 伸

首都直下地震による甚大な被害想定を前にして、「事前復興」という視点から間接被害を軽減化するため、住民、行政、専門家の訓練手法を開発する。

平成19年度は、前年度の練馬区桜台地区での震災復興まちづくり模擬訓練を踏まえて、基礎自治体が備える「震災復興マニュアル」についての策定支援を行い、震災復興マニュアルのあり方と課題について検討をおこなった。

#### 東京圏郊外におけるリスク認知社会学習プログラムと地域を単位とした対抗システムに関する研究

市古太郎

犯罪、屋外事故など、生活空間におけるリスク研究は課題解決型で取り組む必要がある。本研究では、自らの空間に潜在する危険性についての主体的なグループ学習を支援し、対抗する活動能力を向上させる方法論と支援制度システムに関する安全安心まちづくりに関する研究である。

平成19年度は、多摩ニュータウン内の松木小学校における「安全安心マップづくり」の実施支援を通して、屋外空間における子どもの安全性について検討を行った。

### <都市社会システム>

#### 【星 旦二】

都市の健康水準に関する研究

星 旦二

都市の健康水準とその規定要因を研究している。特に、高齢者の健康維持要因追跡研究をしている。高齢者の健康維持要因について、都市1.3万人、地域2.2万人、合計3.5万人の生存追跡研究を実施し、健康三要素間の因果関係を世界で初めて明確にしつつある。

#### 【羽貝正美】

基礎自治体の再編とローカル・ガバナンスに関する研究

羽貝正美

分権改革と自治体再編の潮流のなか、各自治体がいかにローカル・ガバナンスを再構築しようとしているのか、なお残る課題は何かについて住民自治、団体自治の両面から考究し、わが国の都市自治の理論的整理を行うとともに、新潟県における市町村合併の過程と帰結を明らかにした。

フランスにおける都市共同体に関する研究

羽貝正美

わが国とは対照的に約 3 万 6 千に及ぶ極めて多くのコミューヌを擁するフランスを対象に、核となる都市と小規模自治体との連携・協力の仕組みと都市政策の展開について検討を進め、今年度は主にリヨンならびにリールを対象に基礎的作業を実施した。

【饗庭 伸】

都市計画の地方分権に関する研究

饗庭 伸

都市計画の地方分権の実態について、①構造改革特区制度と都市計画制度の関係、②都道府県から市区町村への分権の実態の全国調査、③東京 23 区における地方議会と都市計画審議会の関係の分析、について研究を行い、成果を都市計画学会において学術論文として発表した。

都市建築ストックの集積する都心地域の賦活に関する研究

饗庭 伸

東京都心部の神田地域を対象にして、様々な年代に建設された様々な構造を持つ建築ストックが集積する地域の賦活技術について研究を行った。2004 年から行っている一連の研究であり、2007 年はそのとりまとめの出版を行った。

東アジア諸国のまちづくりの歴史に関する比較研究

饗庭 伸

台湾、韓国、日本の 3 カ国を対象に、戦後のまちづくり(台湾では「社区营造」、韓国では「마울만드울기」)の歴史の比較研究を行った。各国の研究者と共同で横浜(8月)、神戸(1月)、台湾(3月)の国際ワークショップを開催し、調査や研究発表などを行った。

都市の縮退に関する研究

饗庭 伸

人口減少社会に入り、人口増加にともなって膨張した都市が縮退していくと言われている。本研究では首都圏の郊外部を対象に、縮退時代に入った都市の実態を調査し、都市の縮退時における都市デザイン手法についてケーススタディを行った。

### 3. 研究成果リスト

#### <建築計画・都市計画>

##### 【上野淳】

##### 1. 審査論文

倉斗綾子, 宗方淳, 橋本都子, 佐藤将之, 丹沢広行, 上野淳  
教師の教室環境評価からみた適正学級規模に関する考察 ―全国学校・教師アンケート調査から― : 日本建築学会計画系論文集 : No. 614, 2007. 04. : pp73-79

山田あすか, 上野淳

子どもと家族の利用実態に基づく小児病棟プレイルーム改修における調査・デザインと検証 : 日本建築学会技術報告集, No25 : 2007. 06. : pp. 219-224

鄭ソイ, 上野淳 : 自立高齢者を支える地域環境整備の条件に関する研究 ―多摩市「いきがいデイサービス」利用者の地域生活に着目して―

日本建築学会計画系論文集 : No. 616, 2007. 06. : pp55-62

加藤田歌, 上野淳

生活スタイルと住まい方からみた団地居住高齢者の環境整備に関する考察 ―多摩ニュータウン団地居住高齢者の生活像と居住環境整備に関する研究 : 日本建築学会計画系論文集 : No. 617, 2007. 07. : pp9-16

佐藤将之, 宗方淳, 倉斗綾子, 橋本都子, 丹沢広行, 山本聖一郎, 上野淳

学校教室における環境変化の受容と行動に関する考察 学齢と慣れが教室の天井高に対する児童生徒の反応に及ぼす影響(その2) : 日本建築学会計画系論文集 : No. 617, 2007. 07. : pp25-30.

橋本都子, 倉斗綾子, 宗方淳, 佐藤将之, 上野淳

教室の空間計画と心理評価に関する考察 ―児童生徒アンケート調査による教室評価の分析 : 日本建築学会計画系論文集 : No. 620, 2007. 10. : pp57-64.

篠田紀行, 松本真澄, 谷口僚一, 上野淳

東京都心下町地域における在宅高齢者の地域生活様態と外出行動に関する調査―千代田区神田地域のケーススタディー1― : 日本建築学会技術報告集, No. 26 : 2007. 12. : pp673-678.

##### 2. 口頭発表

佐藤将之 (早稲田大)・橋本都子・宗方淳・倉斗綾子・上野淳

アンケート調査の自由記述による教室評価の考察 : 日本建築学会大会学術講演梗概集・D-1

分冊, p. 69- : 2007. 08.

山田あすか (立命館大)・井村理恵・松本真澄・上野淳  
アンケート・ヒアリング調査にみる小規模高齢者介護施設の運営・利用の状況 通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究 その1: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 279- : 2007. 08.

井村理恵 (旭化成ホームズ)・山田あすか・松本真澄・上野淳  
小規模高齢者介護施設における生活展開と利用者の滞在様態 通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究 その2: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 281- : 2007. 08.

川上剛 (首都大大学院)・寺嶋修康・倉斗綾子・栗田実・上野淳  
単位制総合高校における学校運営と生徒の活動に関する考察 横須賀総合高校をケーススタディーとした POE 調査: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 443- : 2007. 08.

栗田実 (首都大大学院)・寺嶋修康・倉斗綾子・川上剛・上野淳  
小規模小学校の計画デザイン提案と利用者の意識・行動の実態に関する考察 九十九小学校をケーススタディーとした POE 調査: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 481- : 2007. 08.

藤澤祐介 (首都大大学院)・金子公亮・倉斗綾子・上野淳  
小中一貫校における学校運営・カリキュラムと児童・生徒の学習生活活動の実態 小中一貫校の建築計画に関する研究 その1: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 487- : 2007. 08.

金子公亮 (日建設計)・藤澤祐介・倉斗綾子・上野淳  
小中一貫校の建築形態からみた児童・生徒の学習・生活活動の実態 小中一貫校の建築計画に関する研究 その2: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 489- : 2007. 08.

松本真澄 (首都大)・篠田紀行・谷口僚一・上野淳  
多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その1 アンケート調査による在宅高齢者の外出行動と生活様態: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-2 分冊, p. 155- : 2007. 08.

篠田紀行 (旭化成ホームズ)・谷口僚一・松本真澄・上野淳  
多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その2 インタビュー調査による在宅高齢者の外出行動と生活様態: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-2 分冊, p. 157- : 2007. 08.

谷口僚一（大和ハウス工業）・篠田紀行・松本真澄・上野淳

多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その3  
街中における高齢者の滞在場所と活動様態：日本建築学会大会学術講演梗概集・E-2分冊，  
p.159-：2007.08.

### 3. 専門書

上野淳

学校建築ルネサンス：単著：鹿島出版会：190頁：2008.01.

#### 【吉川徹】

##### 1. 審査論文

覺知 昇一，吉川 徹，中林 一樹

道路狹隘地域における隅切りの設置と小型消防車両の導入による旋回可能性の改善効果に  
関する基礎的考察，日本建築学会計画系論文集，No.619，pp.125-132，2007

讃岐 亮，吉川 徹，饗庭 伸

立地ポテンシャル優位性の逆転に着目した双子都市の中間における商業施設立地モデル  
酒田市・鶴岡市の中間に立地するショッピングセンターを例として，都市計画論文集，  
No.42-3，pp.481-486，2007

Satoru Kondo and Tohru Yoshikawa

Urban Simulation in terms of Comparison between the Housing Stock and Household  
Composition in the Tokyo Metropolis, Proceedings of Building Stock Activation 2007,  
pp341-348, 2007

Kazuki Yanagisawa and Tohru Yoshikawa

Demand Structure of Public Facilities based on the Zonal Interchange of Residents:  
Evidence from a Questionnaire Survey, Proceedings of Building Stock Activation 2007,  
pp359-366, 2007

佐藤 栄治，吉川 徹，山田 あすか

歩行換算距離を用いた施設配置と住み替えによる地域生活継続可能性の検討-地形条件と  
高齢化を勘案した地域施設配置モデル その2，日本建築学会計画系論文集，No.625，  
pp.611-618，2008

##### 2. 口頭発表

倉斗 綾子，吉川 徹，角田 誠，竹宮 健司，謝 秉銓

利用者ニーズから見た公共施設利用の実態-公共施設利用者アンケートより，日本建築学  
会大会学術講演梗概集，F-1分冊，pp.371-372，2007

覺知 昇一, 吉川 徹, 中林 一樹

隅切りと小型消防車両に着目した密集市街地における消防車両の到達可能性の改善, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 569-570, 2007

吉川徹

メッシュ土地利用データを用いた隣接関係分析における近傍メッシュの選択に関する一考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 735-736, 2007

藤永 智士, 吉川 徹

空間構造が人の移動に与える影響-鉄道と自動車による移動先選択の関係を例として, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 737-738, 2007

柳澤一希, 吉川徹地域公共集会施設の利用構造の推定-東京都多摩市を例として, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 739-740, 2007

佐藤 栄治, 吉川 徹, 山田 あすか地域施設来訪目的別の移動行動への歩行換算距離の適用-地形条件と高齢化を勘案した地域施設配置モデルに関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 741-742, 2007

讃岐 亮, 吉川 徹, 饗庭 伸郊外大規模商業施設の立地ポテンシャルに関する研究-双子都市の中間に立地するショッピングセンターに着目して, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 743-744, 2007

堤 紀考, 吉川 徹, 饗庭 伸空地が住宅地の価値に与える影響に関する分析-地区計画指定地の路線価に着目して, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 745-746, 2007

#### 4. 研究報告

竹宮 健司, 角田 誠, 吉川 徹, 謝 秉銓, 柳澤 一希, 倉斗 綾子, 佐藤 栄治

これからの地域公共施設整備-自己恒常型地域公共施設ネットワークの創成を目指して, 首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学専攻地域公共施設ネットワーク再構築研究プロジェクトチーム, 2008

#### 5. 解説・評論

吉川 徹

多摩ニュータウンの近隣センターのコミュニティカフェ, 建築雑誌, No. 1566, pp. 90-91, 2007

【竹宮健司】

##### 1. 審査論文

星旦二, 市古太郎, 高橋俊彦, 栗盛須雅子, 長谷川卓志, 竹宮健司, 秋山哲男, 中林一樹

都市在宅高齢者における災害時避難可能性の実態とスクリーニング関連要因 地域安全学会論文集, No. 9, pp245-251, 2007

## 2. 口頭発表

竹宮健司, 久世真紀

精神科患者の社会復帰支援態勢・環境に関する研究 A 病院精神科患者の受療行動と生活訓練施設Yの利用特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, pp. 347-348, 2007

柴田大吾, 竹宮健司

乳幼児期を対象とした子育て支援施設の利用特性に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, pp. 181-182, 2007

田龍一, 高尾昌和, 竹宮健司

グループKのケア付き住宅における空間特性と入居状況 高齢期の医療・介護ニーズに応じた支援環境に関する研究 その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, pp. 299-300, 2007

高尾昌和, 竹宮健司

グループKのケア付き住宅における利用者の入居経緯と入居後の生活実態 高齢期の医療・介護ニーズに応じた支援環境に関する研究 その2, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, pp. 301-302, 2007

数藤良太郎, 石澤三香子, 竹宮健司

T病院の面会記録からみる見舞い行動の実態 急性期医療施設における患者と家族の療養環境に関する研究 その1, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, pp. 333-334, 2007

石澤三香子, 竹宮健司

T病院の病棟観察調査からみる患者および面会者の空間利用実態 急性期医療施設における患者と家族の療養環境に関する研究 その2, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, pp. 335-336, 2007

倉斗綾子, 吉川徹, 角田誠, 竹宮健司, 謝秉銓

利用者ニーズから見た公共施設利用の実態 公共施設利用者アンケートより, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, pp. 371-372, 2007

## 5. 解説・論評

竹宮健司

医療福祉用語の基礎知識, 医療福祉建築, No. 156, 2007

【鳥海基樹】

## 2. 口頭発表

TORIUMI Motoki

《L'Urbanisme et la gouvernance à Tôkyô du point de vue des problématiques paysagères》, à l'occasion du colloque sur La Gouvernance des métropoles mondiales: Londres, New York, Tôkyô: des références pour la métropole parisienne?, Paris, Ecole nationale des ponts et chaussées, le 11 juin 2007, 10 pages de texte

鳥海基樹+マリ・クリスティーヌ

セヴィリア万博とジェノヴァ万博の万博遺産の活用状況-万博遺産研究のための基礎調査その2, 2007年日本建築学会大会学術講演梗概集F-1分冊, 2007年8月, pp.81-82

## 3. 専門書

鳥海基樹

住まいの風土性と持続性を回復するために都市設計は如何にあるべきか-都市居住の急増が惹起する都市設計的問題に関する日仏比較からの考察, 日文研叢書, 第41号:「日本の住まいと風土性」, 京都:国際日本文化研究センター, 2007年8月, pp.107-144

鳥海基樹

公共レンタサイクル, 財源は景観規制-持続可能な交通体系構築を目指すパリ, 日経グローバル, No.90, 2007年12月17日, pp.46-51

鳥海基樹

屋外広告物でワンコイン・レンタサイクルの錬金術!?-パリで進む景観形成を介した脱自動車社会への移行, 季刊まちづくり, 第18号, 2008年3月, pp.70-75

鳥海基樹(監修)

「美味しい都市景観をどのようにつくっていくか」+「都市景観の改善とデザイン・マネジメントの必要性-現代建築を組み込んだ新たな都市的風景の創造」, 『city & life』, 第87号:『美味し国』の景観論-フランス, 都市景観の新たな創造, 2008年3月, pp.8-35

## 4. 研究報告

鳥海基樹

「質の高いデザインによる不動産価値増進の実証への展開を期待して」, 国土交通省都市・地域整備局都市計画課(監修):『景観形成の経済的価値分析に関する検討報告書』, 東京:財団法人都市づくりパブリックデザインセンター, 2007年8月, pp.v-vi(この他にも内容執筆に委員会委員として適宜貢献)

## 5. 解説・評論

鳥海基樹

「景観紛争-地域全体の便益提示を」, 『読売新聞』, 2007年9月17日



【黒川直樹】

2. 口頭発表

黒川直樹

From Conversion to Adaptive Reuse—Progress of Reuse-Revitalization Program in North/South Americas and Recent Trend— 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム・建築ストック賦活更新会議 2007 講演集, pp. 121-128, 2007

黒川直樹

アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 (その 1) 近年の傾向および事務所・居住系施設からの転用におけるデザイン手法 (共著) 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 811-812. , 2007

黒川直樹

前掲 (その 2) 産業系施設からの転用におけるデザイン手法 (共著) 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 813-814. , 2007

黒川直樹

前掲 (その 3) 公共系施設からの転用におけるデザイン手法 (共著) 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 815-816. , 2007

黒川直樹

前掲 (その 4) 埠頭施設の再利用最新事例にみる設計計画の新動向 (共著・発表者) 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 817-818. , 2007

【松本真澄】

1. 審査論文

篠田紀行, 松本真澄, 谷口僚一, 上野淳

東京都心下町地域における在宅高齢者の地域生活様態と外出行動に関する調査—千代田区神田地域のケーススタディー 1—: 日本建築学会技術報告集, No. 26:2007. 12. :pp673-678.

2. 口頭発表

山田あすか (立命館大)・井村理恵・松本真澄・上野淳

アンケート・ヒアリング調査にみる小規模高齢者介護施設の運営・利用の状況 通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究 その 1: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 279- : 2007. 08.

井村理恵 (旭化成ホームズ)・山田あすか・松本真澄・上野淳

小規模高齢者介護施設における生活展開と利用者の滞在様態 通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究 その 2: 日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1

分冊, p. 281- : 2007. 08.

松本真澄 (首都大)・篠田紀行・谷口僚一・上野淳

多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その 1  
アンケート調査による在宅高齢者の外出行動と生活様態：日本建築学会大会学術講演梗概  
集・E-2 分冊, p. 155- : 2007. 08.

篠田紀行 (旭化成ホームズ)・谷口僚一・松本真澄・上野淳

多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その 2  
インタビュー調査による在宅高齢者の外出行動と生活様態：日本建築学会大会学術講演梗  
概集・E-2 分冊, p. 157- : 2007. 08.

谷口僚一 (大和ハウス工業)・篠田紀行・松本真澄・上野淳

多摩ニュータウンと東京都心下町地域における高齢者の外出行動に関する比較 その 3  
街中における高齢者の滞在場所と活動様態：日本建築学会大会学術講演梗概集・E-2 分冊,  
p. 159- : 2007. 08.

## 5. 解説・評論

松本真澄, 崎田由香

多摩ニュータウンにおける子供を狙った犯罪, 地方を殺すな!, 洋泉社 2007. 11

## <建築歴史・意匠>

### 【小林克弘】

#### 1. 審査論文

椎橋武史, 小林克弘

ルイス・サリヴァンの建築造形に見られる『動的平衡』その 1-立面構成手法と装飾モチ  
ーフによる垂直性-

日本建築学会計画系論文集 第 618 号 pp. 223-230, 2007 年 9 月.

椎橋武史, 小林克弘

ルイス・サリヴァンの建築造形に見られる『動的平衡』その 2 対比的構成

日本建築学会計画系論文集 (採用決定)

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一

階段室型集合住宅へのエレベータ付加改修システムの開発提案-階段一体型エレベータの  
開発 その 1 -

日本建築学会技術報告集 第 26 号 2007 年

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一

階段室型集合住宅へのエレベータ付加改修システムの開発提案—階段一体型エレベータの開発 その2—

日本建築学会技術報告集 第27号, 2007年

Katsuhiro KOBAYASHI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA, 8名省略  
Design Method and Tendencies of Architectural Conversions in Various Countries of Different Culture I, Works in the U.S.A. and Italy  
Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007.

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiro KOBAYASHI, Akira KINOSHITA, 5名省略  
Design Method and Tendencies of Architectural Conversions in Various Countries of Different Culture II, Works in France, Germany and Finland  
Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007.

Shintaro FUKUOKA, Yoshinori KITSUTAKA, Motoki TORIUMI, Katsuhiro KOBAYASHI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA  
Design Method and Tendencies of Architectural Conversions in Various Countries of Different Culture I, Works in the U.S.A. and Italy  
Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007.

Hitoshi OGAWA, Katsuhiro KOBAYASHI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA, 2名省略  
A Study on the Architectural Conversion from Office Building to Residential Facilities, Through Three Case Studies in Tokyo  
Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007..

Tatsuro SASAKI, Hisaya ISHINO, Katsuhiro KOBAYASHI, Yoshinori KITSUTAKA  
Exterior Refurbishment Techniques in Various Thermal Environments  
Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007

Satoshi KIYOTO, Hisaya ISHINO, Yoshinori KITSUTAKA, Katsuhiro KOBAYASHI, 3名省略  
A Study on the Facade Design for Activating Renewal of Buildings Addressing in Various Thermal Environments  
Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007

Kozo KADOWAKI, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiro KOBAYASHI, Makoto TSUNODA, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Kenichi TAHARA  
Design Strategies for Activating Public Housing Stock Leaned Through the Development of an Elevator Addition System  
Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007

Yoshinori KITSUTAKA, Hisaya ISHINO, Katsuhiko KOBAYASHI, Tatsuro SASAKI  
Facade Design for Activating Renewal of Buildings Addressing in Various Thermal  
Environments in Japan  
SB08MED&EXPO

## 2. 口頭発表

小林克弘, 黒川直樹, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 6名省略  
アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 (その1) - 近年の傾向および事務  
所・居住系施設からの転用におけるデザイン手法 -  
日本建築学会大会講演梗概集, 811-812, 2007年.

宮部貴寛, 小林克弘, 黒川直樹, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 5名省略,  
アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 (その2) - 産業系施設からの転用  
におけるデザイン手法 -  
日本建築学会大会講演梗概集, 813-814, 2007年.

谷泰人, 小林克弘, 黒川直樹, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 5名省略  
アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 (その3) - 公共系施設からの転用  
におけるデザイン手法 -  
日本建築学会大会講演梗概集, 815-816, 2007年.

黒川直樹, 小林克弘, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 6名省略  
アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 (その4) - 埠頭施設の再利用最新  
事例にみる設計計画の新動向 -  
日本建築学会大会講演梗概集, 817-818, 2007年.

椎橋武史, 小林克弘, 木下央  
ルイス・サリヴァンの「形態は機能に従う (Form Follows Function)」に関する考察  
日本建築学会大会講演梗概集 545-546, 2007年.

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一, 大野亮介  
エレベータ付加改修提案の既存連結工事と工程分析 - 団地住棟のバリアフリー改修手法の  
開発提案 その3 -  
日本建築学会大会学術講演梗概集, 771-772, 2007年.

門脇耕三, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 見波進, 小川仁  
エレベータ付加システムの実現可能性評価 - 団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提  
案 その4 -  
日本建築学会大会学術講演梗概集, 773-774, 2007年.

### 3. 専門書

小林克弘, 三田村哲哉, 橘高義典, 鳥海基樹  
世界のコンバージョン建築  
鹿島出版会, 2007年3月

Katsuhiro KOBAYASHI, Yoshinori KITSUTAKA, Motoki TORIUMI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA, Architectural Conversions in Various Cities of Different Cultures, Tokyo Metropolitan University, Nov. 2007

### 4. 研究報告

山田幸正, 小林克弘, 藤田香織, 他  
ベトナム北部少数民族観光村・ザンモーにおける実態調査  
首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学専攻プロジェクト研究コース, 2007

山田幸正, 小林克弘, 藤田香織, 西田司, 藤江創, チャン・ティ・クエハ, 他  
設計競技・ワークショップ 次の50年に残すものーハノイ・チャントゥー団地の改善計画  
首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学専攻, 2007

### 5. 解説・評論

小林克弘  
ストックを活かす4 建築コンバージョン  
都政新報 2007年11月2日 6面

小林克弘  
東京建築賞 第33回建築作品コンクール審査評  
コア東京 2007年9月号

小林克弘  
ちょうふ市民カレッジ「世界の都市空間を歩くーニューヨークの建築と都市」  
調布市文化会館, 2007年12月1日

### 6. 作品等

小林克弘, 他  
N-City ヴィレッジ浄瑠璃6, 接道から解く住宅プラン  
日経アーチテクチャー2008年2-11号, pp. 40-42

小林克弘, 須永修通, 三田村哲哉, 小川仁, 沢田聡, 松本聡子  
蒲田G オフィスビルのコンバージョン  
首都大学東京 21世紀プログラム作品集, 2008年3月

【山田幸正】

1. 審査論文

Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha, So FUJIE, and Osamu NISHIDA  
Guidelines for Activation of Collective Housing based on Vernacular Values: Project for Rehabilitation of Trung-Tu District in Hanoi, Vietnam, Proceedings of Building Stock Activation 2007(International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University), pp.89-94, 2007

Abdul-Latif ZOYA and Yukimasa YAMADA  
Sustaining the Living Environment: Evaluation of the Tourist-led Conservation Project in Old Saida, Proceedings of Building Stock Activation 2007(International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University), pp. 155-162, 2007

Satoshi ONO (Yokohama National Univ.), Ryuta OHASHI (Tokyo Kaseigakuin Univ.), Yukimasa YAMADA, Hidekazu NISHIZAWA (Kansai Univ.)  
The Past and Future of Industrial Heritage: The Case of the Former Onozuka Residence in Oyama, Tochigi Prefecture, Proceedings of Building Stock Activation 2007(International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University), pp.463-470 , 2007

2. 口頭発表

松林佑子, 山田幸正, 藤江創, 野副晋平, チャン・ティクェハー  
チュントゥ団地の住戸共用廊下にみられる使用実態と固有領域形成について—ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する調査研究(6), 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.19-20, 2007

野副晋平, 山田幸正, 藤江創, 松林佑子, チャン・ティクェハー  
チュントゥ団地の住棟間における露店の領域と構成について—ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する調査研究(7), 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.21-22, 2007

藤江創, 山田幸正, 野副晋平, 松林佑子, チャン・ティクェハー  
チュントゥ団地の公園および住棟間の利用実態について—ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する調査研究(8), 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.23-24, 2007

Abdul-Latif ZOYA and Yukimasa YAMADA  
The Influence of Michel Ecochard on the Post-Earthquake Planning of Old Saida, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp.127-128, 2007

片野朋治, 羽生修二 (東海大学), 山田幸正

旧ブイチュ BuiChu 教区におけるカトリック教会堂建築の現状について—ベトナム北部の木造教会建築に関する研究(1), 日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ, pp.317-320, 2008

### 3. 専門書

宮治一雄 (恵泉女学園大学), 宮地美江子 (東京国際大学), 山田幸正ほか  
マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—, 大学図書出版, 2008

### 5. 解説・評論

山田幸正ハノイの集合住宅, 都政新報(10月30日付け6面), 2007

#### 【小泉雅生】

### 1. 審査論文

Kaori FUJITA, Sotaro TAKAHASHI, Masao KOIZUMI and Seiichi FUKAO  
Seismic Diagnosis and Structural Performance Evaluation of Existing Timber Houses  
in Tokyo Part1 Overview and Proposal of Opening Reinforcement  
Proceedings of Building Stock Activation 2007, pp.401-408, 2007年11月

Kaori FUJITA, Sotaro TAKAHASHI, Akiko BABA, Yoshihiro YAMAZAKI and Masao KOIZUMI  
Seismic Diagnosis and Structural Performance Evaluation of Existing Timber Houses  
in Tokyo Part2 Case Study on Detached House  
Proceedings of Building Stock Activation 2007, pp.409-416, 2007年11月

### 3. 専門書

小泉雅生

プレゼンテーションに向けて考えること

建築系学生のための卒業設計の進め方, 第1版, 株式会社井上書院, pp.86-87, 2007

### 4. 研究報告

小泉雅生

健康維持増進住宅～生涯健康・生涯現役社会へむけて～

IBEC, No.164, 財団法人建築環境・省エネルギー機構, pp.79-80, 2008

### 5. 解説・評論

小泉雅生

My Product

DETAIL JAPAN, 12号, リート・ビジネス・インフォメーション, pp.103, 2007

小泉雅生

コミュニケーションの形成

近代建築, 第 61 卷 5 号, 近代建築社, pp. 52-53, 2007

小泉雅生

建築デザインは社会に何をなし得るか

建築雑誌, 第 1566 号, 日本建築学会, pp. 16-19, 2007

小泉雅生

上手な打放しコンクリート

建築技術, No. 693, (株)建築技術, pp. 162-165, 2007

## 6. 作品等

小泉雅生

イガタ

住宅特集, No. 252, 新建築社, pp. 102-106, 2007

小泉雅生

複合するメリットを建築的に抽出する

GA JAPAN, No. 86, A. D. A EDITA Tokyo, pp. 72-87, 2007

小泉雅生

千葉美浜文化ホール・保健福祉センター

DETAIL JAPAN, 13 号, リード・ビジネス・インフォメーション, pp. 12-19, 2007

小泉雅生

千葉美浜文化ホール・保健福祉センター

新建築, 631 号, 新建築社, pp. 134-143, 2007

小泉雅生

第 2 回サステナブル住宅賞国土交通大臣賞「アシタノイエ」

IBEC, 160 号, (財)建築環境・省エネルギー機構, pp. 10-15, 2007

小泉雅生

戸田市立芦原小学校

現代日本の建築家, 2 号, 社団法人日本建築家協会, pp. 312-313, 2007

小泉雅生

エネルギー制御装置としての住宅デザイン

住宅建築, 387 号, 建築資料研究社, pp. 6-13, 2007



小泉雅生

千葉市美浜文化ホール・保健福祉センター

ジャパンデザイン・グッドデザインアワード・イヤブックス, 財団法人日本産業デザイン振興会, pp. 320, 2008

## 【木下央】

### 1. 審査論文

Katsuhiro KOBAYASHI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA, 8名省略

Design Method and Tendencies of Architectural Conversions in Various Countries of Different Culture I, Works in the U.S.A. and Italy

Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007.

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiro KOBAYASHI, Akira KINOSHITA, 5名省略

Design Method and Tendencies of Architectural Conversions in Various Countries of Different Culture II, Works in France, Germany and Finland

Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007.

Shintaro FUKUOKA, Yoshinori KITSUTAKA, Motoki TORIUMI, Katsuhiro KOBAYASHI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA

Design Method and Tendencies of Architectural Conversions in Various Countries of Different Culture I, Works in the U.S.A. and Italy

Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007.

Hitoshi OGAWA, Katsuhiro KOBAYASHI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA, 2名省略

A Study on the Architectural Conversion from Office Building to Residential Facilities, Through Three Case Studies in Tokyo

Building Stock Activation 2007, Tokyo Metropolitan University, 2007..

### 2. 口頭発表

小林克弘, 黒川直樹, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 6名省略

アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その1)ー近年の傾向および事務所・居住系施設からの転用におけるデザイン手法ー

日本建築学会大会講演梗概集, 811-812, 2007年.

宮部貴寛, 小林克弘, 黒川直樹, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 5名省略,

アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その2)ー産業系施設からの転用におけるデザイン手法ー

日本建築学会大会講演梗概集, 813-814, 2007年.

谷泰人, 小林克弘, 黒川直樹, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 5名省略

アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究(その3)ー公共系施設からの転用

におけるデザイン手法ー

日本建築学会大会講演梗概集, 815-816, 2007 年.

黒川直樹, 小林克弘, 木下央, 三田村哲哉, 椎橋武史, 6名省略

アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究 (その 4)ー埠頭施設の再利用最新事例にみる設計計画の新動向ー

日本建築学会大会講演梗概集, 817-818, 2007 年

.

椎橋武史, 小林克弘, 木下央

ルイス・サリヴァンの「形態は機能に従う (Form Follows Function)」に関する考察

日本建築学会大会講演梗概集 545-546, 2007 年

.

### 3. 専門書

Katsuhiko KOBAYASHI, Yoshinori KITSUTAKA, Motoki TORIUMI, Tetsuya MITAMURA, Akira KINOSHITA, Architectural Conversions in Various Cities of Different Cultures, Tokyo Metropolitan University, Nov. 2007

## <建築生産>

### 【深尾精一】

#### 1. 審査論文

齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三

戸建住宅の外壁改修周期に関する研究ー複数の市街地における比較分析ー, 日本建築学会計画系論文集, 第 615 号, pp. 61-67, 2007

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一

階段室型集合住宅へのエレベータ付加改修システムの開発提案ー階段一体型エレベータの開発 その 1ー, 日本建築学会技術報告集, 第 13 巻, 第 26 号, pp. 715-720, 2007

Kozo KADOWAKI, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Makoto TSUNODA, Hitoshi OGAWA and Kenichi TAHARA

Design Strategies for Activating Public Housing Stock Learned through the Development of an Elevator Addition System, Proceedings of the 1st International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University “Building Stock Activation 2007 (BSA2007)”, pp. 417-422, 2007

Shigeki SAITO, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Research on the Regional Difference of External Wall Refurbishment, Proceedings of the 1st International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University “Building Stock Activation 2007 (BSA2007)”, pp. 455-462, 2007

Seiichi FUKAO, Kozo KADOWAKI and Kenichi NISHIKAWA

Investigation Research on Renovation of the Exterior Walls in Ginza Area of Tokyo, Proceedings of the Third International Ar. Tec. Congress “The Building Envelope: A Complex Design”, Polytechnic University of Marche, 2007

## 2. 口頭発表

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一, 大野亮介  
エレベータ付加改修システムの既存連結工事と工程分析 ー団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その3ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 771-772, 2007

門脇耕三, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 見波進, 小川仁  
エレベータ付加システムの実現可能性評価 ー団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その4ー日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 773-774, 2007

大野亮介, 今井茜, 深尾精一, 門脇耕三  
超高層集合住宅のアクセス方式に関する分類と現状把握 ー超高層集合住宅における戸別改修容易性の評価手法に関する研究 その1ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 769-770, 2007

伊藤雄一, 深尾精一, 門脇耕三  
敷地条件や法的条件が中高層建築物の外壁構成に与える影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 741-742, 2007

齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三  
戸建住宅における外壁改修経験の有無に影響を与える要員の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 737-738, 2007

中島賢昭, 深尾精一, 門脇耕三, 齋藤茂樹  
隣棟間隔に着目した木造密集地における戸建住宅の外壁構法に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 739-740, 2007

鈴木絵里加, 草野祥子, 深尾精一, 門脇耕三, 齋藤茂樹  
戸建住宅の建替えと改修の実態 ー戸建住宅地における住宅の改修行為と社会的耐用年数に関する研究 その1ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 781-782, 2007

草野祥子, 深尾精一, 門脇耕三, 齋藤茂樹, 鈴木絵里加  
戸建住宅の取得方法別による改修履歴の傾向 ー戸建住宅地における住宅の改修行為と社会的耐用年数に関する研究 その2ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 783-784, 2007

### 3. 専門書

内田祥哉, 大野隆司, 吉田倬郎, 深尾精一, 瀬川康秀  
建築構法 第五版, 285 pp., 市ヶ谷出版社, 2007

### 4. 研究報告

深尾精一, 門脇耕三, 阿部順子

団地賦活事例集 フランス・日本, 120 pp., 首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 建築学専攻+首都大学東京 COE 研究拠点 4-Met センター, 2007

饗庭伸, 門脇耕三, 角陸順香, 橘高義典, 須永修通, 角田誠, 田村雅紀, 深尾精一, 吉川徹 (編)

都市建築時空間多様性調和工学読本 ーストック社会の都市建築学ー, 87 pp., 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 建築学専攻+首都大学東京 COE 研究拠点 4-Met センター, 2007

深尾精一 (委員長) 他

長もちする住宅の設計手法マニュアル「設計・施工・維持管理」, 171 pp., (財) 日本住宅・木材技術センター, 2007

### 5. 解説・評論

深尾精一

公共建築物のストック活用, 公共建築, Vol. 49, No. 193, pp. 10-13, 2007

深尾精一

ストック活用型社会における建築学の方向, 学術の動向, 2008年3月号, 日本学術協力財団, pp. 59-60, 2008

#### 【橘高義典】

##### 1. 審査論文

蛭田暁, 橘高義典, 田村雅紀

土壁塗り仕上材料の色彩調合設計方法に関する研究  
日本建築学会構造系論文集, Vol. 73, No. 624, 2008

寺東由美子, 橘高義典

空洞プレストレストコンクリートパネルの壁面緑化パネルへの応用に関する研究  
日本建築学会技術報告集, 第 25 号, pp. 29-33, 2007

Yoshinori Kitsutaka and Kenji Arai

Fracture behavior of reinforced concrete cover due to rebar corrosion

Proceedings of the 6th International Conference on Fracture Mechanics of Concrete and Concrete Structures, Catania, ITALY, pp. 809-816, 2007

Shintarou Fukuoka and Yoshinori Kitsutaka

Mixed-mode Fracture tests for Application of High-strength Fiber-reinforced Concrete for Seismic Isolation

Proceedings of the 6th International Conference on Fracture Mechanics of Concrete and Concrete Structures, Catania, ITALY, pp. 1387-1393, 2007

Kiyoto S., Ishino H., Kitsutaka Y., Kobayashi K., Sasaki T., Nohara F. and Ohoyama M.

A Study on the Facade Design for Activating Renewal of Buildings Addressing Various Thermal Environments

Proceedings of Building Stock Activation 2007, BSA2007, 221-226, 2007

Sasaki T., Ishino H., Kobayashi K. and Kitsutaka Y.

Current State of Exterior Refurbishment Techniques in Various Thermal Environments, Proceedings of Building Stock Activation 2007, BSA2007, 213-220, 2007

Yoshinori KITSUTAKA, Hisaya ISHINO, Katsuhiro KOBAYASHI and Tatsuro SAKI

Facade Design for Activation Renewal of Buildings Addressing Various Thermal Environments in Japan

SB08MED&EXPO, Athens, GREECE, WORKSHOP 2, CD-ROM 10p, 10-12. 2008

## 2. 口頭発表

金森智子, 橘高義典, 田村雅紀

超高層住宅の外壁の配色構成が外観の印象評価に及ぼす影響

日本色彩学会誌, 第31巻, pp.22-23, 2007.5

蛭田 暁, 橘高義典, 田村雅紀

土壁塗り仕上材料の色彩調合設計方法に関する研究

日本色彩学会誌, 第31巻, pp.28-29, 2007.5

橘高義典, 花ヶ崎恵美加

建築ファサード群の印象評価に影響を及ぼす空間色彩分布特性に関する研究

日本色彩学会誌, 第31巻, pp.38-39, 2007.5

福岡伸太郎, 橘高義典

高強度繊維補強モルタルの混合モード破壊試験

第61回セメント技術大会講演要旨集, 2007

福岡伸太郎、橘高義典

高強度繊維補強モルタルの混合モード試験方法に関する基礎的検討

日本建築学会大会学術講演梗概集（九州），材料施工 A-1，pp. 419-420，2007.8

田村雅紀，高比良 充，橘高義典

骨材回収型リサイクル指向コンクリートの実用化に関する研究, その4 長期養生試料の基礎物性

日本建築学会大会学術講演梗概集（九州），材料施工 A-1，pp. 153-154，2007.8

高比良 充，田村雅紀，橘高義典

骨材回収型リサイクル指向コンクリートの実用化に関する研究, その5 二相材料指向型の概要とフレッシュ性状

日本建築学会大会学術講演梗概集（九州），材料施工 A-1，pp. 155-156，2007.8

金森智子，橘高義典，田村雅紀

超高層住宅の外壁の配色構成が外観の印象評価に及ぼす影響

日本建築学会大会学術講演梗概集（九州），材料施工 A-1，pp. 419-420，2007.8

平松宏基，橘高義典，田村雅紀

各種建築外装仕上げパネルの耐火性能に関する研究

日本建築学会大会学術講演梗概集（九州），材料施工 A-1，pp. 1013-1014，2007.8

FUKAO Seiichi and KITSUTAKA Yoshinori

Development of Technologies for Activation and Renewal of Building Stocks in the 21st Century COE Program

Proceedings of the International Symposium on Sustainable Urban Environment 2007, ISSUE2007, pp. 40-44, 2007

### 3. 専門書

KOBAYASHI Katsuhiro, KITSUTAKA Yoshinori, TORIUMI Motoki, MITSUMURA Tetsuya and KINOSHITA Akira

Architectural Conversions in Various Cities of Different Cultures -Harmony of Space/Time in Italy, the U.S.A., France, Australia, Finland, and Germany-, The 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University, 2007

### 5. 解説・評論

橘高義典

建物の美観性とエイジング・リフォーム

月刊リフォーム，pp. 22-25，2007

【角田誠】

1. 審査論文

岡村卓麻, 角田 誠

プレハブ住宅解体工事における作業量・排出材量の実態

日本建築学会技術報告集, 第26号, pp695-698, 2007年12月

Ping-Chuan HSIEH and Makoto TSUNODA

Facility Evaluation of Administrative Cost and Availability of Public Facilities -  
A Case Study of Tama City

Proceedings of Building Stock Activation 2007, pp.283-290, 2007.11

2. 口頭発表

倉斗綾子・吉川徹・角田誠・竹宮健司・謝秉銓

利用者ニーズから見た公共施設利用の実態 公共施設利用者アンケートより

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 371-372, 2007年8月

近江祐史・角田誠

学校建築のコンバージョン設計における既存空間特性と空間変容の因果関係

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp799-800, 2007年8月

飯倉健自・角田誠

生産施設の再利用の実態と改修設計手法に関する調査研究

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 801-802, 2007年8月

掲載:2007年, E-1分冊, p. 801

岡村卓麻・角田誠

プレハブ住宅の解体工事における作業性に関する研究

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 811-812, 2007年8月

謝秉銓・角田誠

公共施設マネジメントに着目した施設運営管理費の実態把握 東京都多摩市をモデルとして

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp. 1177-1178, 2007年8月

高山卓磨・松村秀一・遠藤和義・角田誠・佐藤考一

ホームセンターによる住宅リフォームの現状調査 建築再生における建材流通拠点に関する研究

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1, pp. 1335-1336, 2007年8月

### 3. 専門書

松村秀一・角田誠・清家剛ほか（共編著）  
建築再生の進め方 ストック時代の建築学入門  
市ヶ谷出版社(単行本), p.224

真鍋恒博・角田誠・山畑信博・清家剛ほか(分担執筆)  
建築工事標準仕様書・同解説 JASS16 建具工事  
日本建築学会, p.343

### 4. 研究報告

上野淳・須永修通・角田誠・北山和宏・倉斗綾子・森田真司  
学校建築を活かす 学校の再生・改修マニュアル  
首都大学東京 21 世紀 COE プログラム 学校再生プロジェクト, p.102, 2007 年 8 月

### 5. 解説・評論

角田誠  
循環型社会に相応しい住宅を考える  
街並み, Vol142, pp.2-3, (財)東京都防災・建築まちづくりセンター, 2008 年 3 月

#### 【門脇耕三】

##### 1. 審査論文

齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三  
戸建住宅の外壁改修周期に関する研究 ―複数の市街地における比較分析―, 日本建築学会  
会計画系論文集, 第 615 号, pp. 61-67, 2007

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一  
階段室型集合住宅へのエレベータ付加改修システムの開発提案 ―階段一体型エレベータ  
の開発 その 1―, 日本建築学会技術報告集, 第 13 巻, 第 26 号, pp. 715-720, 2007

Kozo KADOWAKI, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Makoto TSUNODA,  
Hitoshi OGAWA and Kenichi TAHARA  
Design Strategies for Activating Public Housing Stock Learned through the Development  
of an Elevator Addition System, Proceedings of the 1st International Conference of  
21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University “Building Stock Activation  
2007 (BSA2007)”, pp. 417-422, 2007

Shigeki SAITO, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI  
Research on the Regional Difference of External Wall Refurbishment, Proceedings of  
the 1st International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan  
University “Building Stock Activation 2007 (BSA2007)”, pp. 455-462, 2007



Seiichi FUKAO, Kozo KADOWAKI and Kenichi NISHIKAWA

Investigation Research on Renovation of the Exterior Walls in Ginza Area of Tokyo, Proceedings of the Third International Ar. Tec. Congress “The Building Envelope: A Complex Design”, Polytechnic University of Marche, 2007

## 2. 口頭発表

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一, 大野亮介  
エレベータ付加改修システムの既存連結工事と工程分析 ー団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その3ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 771-772, 2007

門脇耕三, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 見波進, 小川仁  
エレベータ付加システムの実現可能性評価 ー団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その4ー日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 773-774, 2007

大野亮介, 今井茜, 深尾精一, 門脇耕三  
超高層集合住宅のアクセス方式に関する分類と現状把握 ー超高層集合住宅における戸別改修容易性の評価手法に関する研究 その1ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 769-770, 2007

伊藤雄一, 深尾精一, 門脇耕三  
敷地条件や法的条件が中高層建築物の外壁構成に与える影響, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 741-742, 2007

齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三  
戸建住宅における外壁改修経験の有無に影響を与える要員の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 737-738, 2007

中島賢昭, 深尾精一, 門脇耕三, 齋藤茂樹  
隣棟間隔に着目した木造密集地における戸建住宅の外壁構法に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 739-740, 2007

鈴木絵里加, 草野祥子, 深尾精一, 門脇耕三, 齋藤茂樹  
戸建住宅の建替えと改修の実態 ー戸建住宅地における住宅の改修行為と社会的耐用年数に関する研究 その1ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 781-782, 2007

草野祥子, 深尾精一, 門脇耕三, 齋藤茂樹, 鈴木絵里加  
戸建住宅の取得方法別による改修履歴の傾向 ー戸建住宅地における住宅の改修行為と社会的耐用年数に関する研究 その2ー, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 783-784, 2007

### 3. 専門書

門脇耕三（分担執筆）

建築系学生のための卒業設計の進め方, pp. 122-123, 井上書院, 2007

### 4. 研究報告

深尾精一, 門脇耕三, 阿部順子

団地賦活事例集 フランス・日本, 120 pp., 首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 建築学専攻+首都大学東京 COE 研究拠点 4-Met センター, 2007

饗庭伸, 門脇耕三, 角陸順香, 橘高義典, 須永修通, 角田誠, 田村雅紀, 深尾精一, 吉川徹（編）

都市建築時空間多様性調和工学読本 ーストック社会の都市建築学一, 87 pp., 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 建築学専攻+首都大学東京 COE 研究拠点 4-Met センター, 2007

#### 【田村雅紀】

##### 1. 審査論文

蛭田暁, 橘高義典, 田村雅紀

土壁塗り仕上材料の色彩調合設計方法に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, Vol. 73, No. 624, 2008

##### 2. 口頭発表

田村雅紀, 高比良充, 橘高義典

骨材回収型リサイクル指向コンクリートの実用化に関する研究, その4 長期養生試料の基礎物性, 日本建築学会学術講演梗概集, 材料施工 A-1 CD-ROM, 2007

金森智子, 橘高義典, 田村雅紀

超高層住宅の外壁の配色構成が外観の印象評価に及ぼす影響, 日本建築学会学術講演梗概集, 材料施工 A-1 CD-ROM, 2007

高比良充, 田村雅紀, 橘高義典

骨材回収型リサイクル指向コンクリートの実用化に関する研究, その5 二相材料指向型の概要とフレッシュ性状, 日本建築学会学術講演梗概集, 材料施工 A-1 CD-ROM, 2007

平松宏基, 橘高義典, 田村雅紀 2007 各種建築外装仕上げパネルの耐火性能に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, 材料施工 A-1 CD-ROM

田村雅紀, 高比良充, 橘高義典

材料保存を可能とする骨材回収型コンクリートの開発, その4 長期養生試料の基礎物性,

第 61 回セメント技術大会学術講演集, pp. 144-145, 2007

田村雅紀, 高比良充, 橘高義典

材料保存を可能とする骨材回収型コンクリートの開発, その 5 二相指向型の提案とフレッシュ性状, 第 61 回セメント技術大会学術講演集, pp. 146-147, 2007

高比良充, 田村雅紀, 橘高義典

材料保存を可能とする骨材回収型コンクリートの開発, その 6 二相指向型の力学特性, 第 61 回セメント技術大会学術講演集, pp. 148-149, 2007

### 3. 専門書

田村雅紀(共著)

都市建築時空間多様性調和読本, 21 世紀 COE プログラム, 2007

田村雅紀(共著)

マテリアル・デザイン 2007, ディテール, 2007

### 4. 研究報告

田村雅紀(共著)

サステナブル・ビルディング普及のための基本的な考え方, 日本建築学会地球環境委員会, サステナブル・ビルディング小委員会報告書, 2007

田村雅紀(共著)

建築材料のマテリアルフローと資源利用の課題, 日本建築学会地球環境委員会, 資源利用戦略小委員会報告書, 2007

田村雅紀 2007 築 30 年程を経過した既存コンクリート構造物における改修時コア強度調査に基づく建物の維持可能性に関する基礎的検討, トステム建材産業振興財団研究助成報告書

田村雅紀

アジア地域における持続可能な建設活動の中核技術に関する動向調査・方策提示, 鴻池奨学財団研究助成報告書, 2007

田村雅紀(共著)

環境対応型コンクリートの環境影響評価手法に関する研究, 日本コンクリート工学協会研究委員会報告書, 2007

### 5. 解説・評論

田村雅紀, 上野敦,

再生骨材コンクリートの現状と将来展望—JIS 概要と普及促進に向けてに関するシンポジウムの概況, pp. 150-153, コンクリート工学, Vol. 45, No. 5, 2007. 5

田村雅紀, 古賀純子(建築研究所)

建築仕上材料の資源循環に関わる調査研究活動の概況, 日本建築仕上学会 finex Vol.20 No. 116, 2007

## <建築構造>

### 【芳村学】

#### 1. 審査論文

高稲宜和 (鹿島), 芳村学

破壊曲面縮小の概念に基づくせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の定量的損傷評価 日本建築学会構造系論文集, No. 618, pp. 191-197. , 2007

#### 2. 口答発表

高稲宜和 (鹿島), 芳村学

破壊曲面縮小の概念に基づくせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の残存鉛直耐力の評価 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp. 5-8. , 2007

保木和明, 芳村学

主筋に丸鋼を用いた鉄筋コンクリート柱の付着性状 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp. 309-310, 2007.

仙崎智渉, 保木和明, 中村孝也, 芳村学

丸鋼を用いた袖壁付き鉄筋コンクリート柱の崩壊実験 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp. 311-312. , 2007

藤井俊二 (大成建設), 芳村学

ペンシルビルを対象とした建物外部から施工可能な耐震補強技術 その 1 技術の概要 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp. 533-534, 2007.

永作智也, 中村孝也, 中村敏治 (大成建設), 芳村学

ペンシルビルを対象とした建物外部から施工可能な耐震補強技術 その 3 定着型補強筋を用いた柱の崩壊実験 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp. 537-538, 2007.

金紅日, 芳村学, 中村孝也

柱への袖壁付加が建物の地震応答変形に与える影響の評価 -古い RC 建物を対象として- 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp. 783-784, 2007.

Manabu YOSHIMURA

Gravity Load Collapse of Reinforced Concrete Columns, Proceedings of Fifth International Conference on Urban Earthquake Engineering, Center for Urban Earthquake Engineering, Tokyo Institute of Technology, pp. 185-189. , 2007

## 5. 解説・評論

芳村学

既存鉄筋コンクリート建物の耐震性評価の精密化 首都大学東京の50人, Vol. 6, pp. 4. , 2007

芳村学

巻頭言：会誌500号とそれに先立つ16号 コンクリート工学, Vol. 45, No. 5, pp. 1. , 2007

## 【山崎真司】

### 1. 審査論文

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一  
階段室型集合住宅へのエレベータ付加改修システムの開発提案 - 階段一体型エレベータの開発その1 - 日本建築学会技術報告集, No. 26, pp. 715-720, 2007

田原健一, 山崎真司, 見波進

履歴ダンパーを用いた連結制振構造の地震応答低減効果 日本建築学会構造系論文集, No. 621, pp. 49-56, 2007

Kozo KADOWAKI, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Makoto TSUNODA, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA and Kenichi TAHARA  
Design Strategies for Activating Public Housing Stock Learned through the Development of an Elevator Addition System, Proceedings of Building Stock Activation 2007, International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University, pp. 417-422, 2007

Hiromi SATO, Akiko BABA, Kaori FUJITA, Kazushige YAMAMURA, Shin AIBA and Susumu MINAMI  
Seismic Diagnosis and Structural Performance Evaluation of Existing Timber Houses in Tokyo: Part 4 Analysis of Urban Houses in Kanda, Proceedings of Building Stock Activation 2007, International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University, pp. 479-486, 2007

### 2. 口頭発表

田原健一, 山崎真司, 見波進

連結制振構造に関する研究 (その7) 制振効果の予測 日本建築学会大会学術講演梗概集,

B-2 分冊, pp. 743-744, 2007

山崎真司, 見波進, 柳沼大樹

繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力 その 1 繰返し載荷実験 日本建築学会  
大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 739-740, 2007

柳沼大樹, 山崎真司, 見波進

繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力 その 2 実験結果の考察とエネルギー吸  
収能力の予測法 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 741-742, 2007

見波進, 山崎真司, 羽田和樹

鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究 その 2 進行性崩壊の停止条件および  
動的解析モデルの検討 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 1025-1026, 2007

羽田和樹, 山崎真司, 見波進

鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究 その 3 進行性崩壊の動的解析結果  
日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 1027-1028, 2007

小林珠恵, 山崎真司, 見波進, 田原健一

制振構造における履歴型ダンパーのエネルギー応答性状 日本建築学会大会学術講演梗概  
集, C-1 分冊, pp. 1095-1096, 2007

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一, 大野亮介

エレベータ付加改修システムの既存連結工事と工程分析 一団地住棟のバリアフリー改修  
手法の開発提案 (その 3) ー 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 771-772,  
2007

門脇耕三, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 見波進, 小川仁

エレベータ付加システムの実現可能性評価 一団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提  
案 (その 4) ー 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 773-774, 2007

### 3. 専門書

山崎真司, 見波進, 他

長周期地震動と建築物の耐震性 日本建築学会, pp. 53-61, p. 119, pp. 169-182, pp. 189-193,  
pp. 386-390, 2007

### 4. 研究報告

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 大野亮介, 羽田和樹

団地型公共住宅のトータルリモデル 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築  
ストックの賦活・更新技術育成」平成 18 年度成果報告書, pp. 8-9, 2007

深尾精一，山崎真司，門脇耕三，見波進，小川仁，田原健一，大野亮介，羽田和樹  
団地型公共集合住宅の階段一体型エレベータによる修景 首都大学東京21世紀COEプログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成18年度成果報告書，pp.10-11，2007

山崎真司，見波進，田原健一  
制振手法による既存建築構造物の耐震性向上 一連結制振による制振補強効果の簡易予測法一 首都大学東京21世紀COEプログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成18年度成果報告書，pp.20-21，2007

深尾精一，山崎真司，小林克弘，角田誠，門脇耕三，見波進，小川仁，田原健一  
団地型公共住宅のトータルリモデル 首都大学東京21世紀COEプログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成19年度成果報告書，pp.8-9，2008

#### 【北山和宏】

##### 1. 審査論文

中沼弘貴、北山和宏、田島祐之、森田真司  
鉄骨ブレースで補強されたRC骨組の三方向外力下での復元力特性 コンクリート工学年次論文集、Vol.29、No.3、pp.1147-1152.，2007

Ryoko KURAKAZU, Jun UENO, Makoto TSUNODA, Kazuhiro KITAYAMA and Nobuyuki SUNAGA  
A Study on Model Method of Japanese School Buildings Renewal and Conversion through The Actual Proposal Projects Proceedings of Building Stock Activation 2007, pp. . . , 2007

##### 2. 口頭発表

林秀樹、北山和宏、中沼弘貴  
連層鉄骨ブレースで補強されたRC骨組の三方向外力下での耐震性能評価（その1 実験概要と結果） 日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2 構造 IV pp.483-484.，2007

中沼弘貴、北山和宏、林秀樹  
連層鉄骨ブレースで補強されたRC骨組の三方向外力下での耐震性能評価（その2 実験結果の検討） 日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2 構造 IV pp.485-486.，2007

宮崎裕ノ介、田島祐之、北山和宏 2007 シース管内のPC鋼棒の付着強度に関する実験的研究 日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2 構造 IV pp.141-142.

北山和宏、田島祐之  
付着性能に注目したプレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）柱梁十字形部分架構の復元力

特性に関する研究(その3 PC鋼材付着性能) 日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2 構造 IV pp.637-638. , 2007

田島祐之、北山和宏  
付着性能に注目したプレストレスト鉄筋コンクリート (PRC) 柱梁十字形部分架構の復元力特性に関する研究(その4 等価粘性減衰定数) 日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2 構造 IV pp.639-640. , 2007

森田真司、北山和宏  
梁主筋付着性能を向上させたRC造内柱・梁接合部のせん断性状に関する3次元FEM解析 日本建築学会大会学術講演梗概集 C-2 構造 IV pp.621-622, 2007.

#### 4. 研究報告

北山和宏  
耐震補強した構造物の性能評価 「被災構造物の復旧性能評価研究委員会」報告書 日本コンクリート工学協会 pp.88-93. , 2007

#### 5. 解説・評論

北山和宏  
PC部材の耐震性能評価と限界状態 日本建築学会大会PC部門パネルディスカッション資料 pp.22-38. , 2007

### 【見波進】

#### 1. 審査論文

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一  
階段室型集合住宅へのエレベータ付加改修システムの開発提案 - 階段一体型エレベータの開発その1 - 日本建築学会技術報告集, No. 26, pp. 715-720, 2007

田原健一, 山崎真司, 見波進  
履歴ダンパーを用いた連結制振構造の地震応答低減効果 日本建築学会構造系論文集, No. 621, pp. 49-56, 2007

中村孝也, 芳村学, 見波進  
サブストラクチャ擬似動的実験によるせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の崩壊実験 日本建築学会構造系論文集, No. 619, pp. 141-148, 2007

Kozo KADOWAKI, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Makoto TSUNODA, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA and Kenichi TAHARA  
Design Strategies for Activating Public Housing Stock Learned through the Development of an Elevator Addition System, Proceedings of Building Stock Activation 2007,



International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University, pp. 417-422, 2007

Hiromi SATO, Akiko BABA, Kaori FUJITA, Kazushige YAMAMURA, Shin AIBA and Susumu MINAMI  
Seismic Diagnosis and Structural Performance Evaluation of Existing Timber Houses in Tokyo: Part 4 Analysis of Urban Houses in Kanda, Proceedings of Building Stock Activation 2007, International Conference of 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University, pp. 479-486, 2007

## 2. 口頭発表

Isao FUJIMOTO, Tadao NAKAGOMI, Tomohisa YAMADA and Susumu MINAMI  
Tensile Test on Aluminum Brace Using High Strength Frictional Grip Bolts Proceedings of the 10th International Conference on Joints in Aluminium (INALCO 2007), pp. 245-251, 2007

Susumu MINAMI, Tadao NAKAGOMI, Tomohisa YAMADA and Isao FUJIMOTO  
Slip Tests on High Strength Frictional Grip Joints of Stainless Steel Bolts in Aluminum Alloy Structures, Proceedings of the 10th International Conference on Joints in Aluminium (INALCO 2007), pp. 252-259, 2007

Tomohisa YAMADA, Tadao NAKAGOMI, Susumu MINAMI and Isao FUJIMOTO  
Shear Strength of Aluminum Alloy Bolt, Proceedings of the 10th International Conference on Joints in Aluminium (INALCO 2007), pp. 268-273, 2007

田原健一, 山崎真司, 見波進  
連結制振構造に関する研究 (その 7) 制振効果の予測 日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, pp. 743-744, 2007

山崎真司, 見波進, 柳沼大樹  
繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力 その 1 繰返し載荷実験 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 739-740, 2007

柳沼大樹, 山崎真司, 見波進  
繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力 その 2 実験結果の考察とエネルギー吸収能力の予測法 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 741-742, 2007

見波進, 山崎真司, 羽田和樹  
鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究 その 2 進行性崩壊の停止条件および動的解析モデルの検討 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 1025-1026, 2007

羽田和樹, 山崎真司, 見波進

鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究 その3 進行性崩壊の動的解析結果  
日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 1027-1028, 2007

小林珠恵, 山崎真司, 見波進, 田原健一

制振構造における履歴型ダンパーのエネルギー応答性状 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, pp. 1095-1096, 2007

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一, 大野亮介

エレベータ付加改修システムの既存連結工事と工程分析 ー団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 (その3) ー 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 771-772, 2007

門脇耕三, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 見波進, 小川仁

エレベータ付加システムの実現可能性評価 ー団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 (その4) ー 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 773-774, 2007

### 3. 専門書

山崎真司, 見波進, 他

長周期地震動と建築物の耐震性 日本建築学会, pp. 169-182, 2007

### 4. 研究報告

見波進, 他

建築鉄骨における溶融亜鉛めっき割れの発生とその防止法 (社)溶接学会建築鉄骨溶接特別研究委員会, p. 91, 2007

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 大野亮介, 羽田和樹

団地型公共住宅のトータルリモデル 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 18 年度成果報告書, pp. 8-9, 2007

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 大野亮介, 羽田和樹

団地型公共集合住宅の階段一体型エレベータによる修景 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 18 年度成果報告書, pp. 10-11

見波進, 饗庭伸, 山村一繁, 藤田香織, 吉川徹, 中村孝也, 高稲宜和, 佐藤弘美

下町建築ストックの地震リスク情報化とその地域での共有化 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 18 年度成果報告, pp. 18-19, 2007

山崎真司, 見波進, 田原健一

制振手法による既存建築構造物の耐震性向上 ー連結制振による制振補強効果の簡易予測法ー 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 18 年度成果報告書, pp. 20-21, 2007

深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 角田誠, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一  
団地型公共住宅のトータルリモデル 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 19 年度成果報告書, pp. 8-9, 2008

饗庭伸, 見波進, 西田司(横浜国立大学)

都市エリアの地域賦活シナリオ形成支援技術の統合化 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 19 年度成果報告書, pp. 14-15, 2008

#### 【中村孝也】

##### 1. 審査論文

中村孝也, 芳村学, 近藤隆幸

中間層崩壊に対する建物層数の影響 コンクリート工学年次論文報告集, vo. 29, No. 3, pp. 871-876. , 2007

中村孝也, 芳村学, 見波進

サブストラクチャ擬似動の実験によるせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の崩壊実験 日本建築学会構造系論文集, No. 619, pp. 141-148. , 2007

##### 2. 口答発表

中村孝也, 芳村学, 近藤隆幸

RC 建物の中間層崩壊に対する建物層数の影響 日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, pp. 731-732. , 2007

### <建築環境>

#### 【石野久彌・中山哲士】

##### 1. 審査論文

水出喜太郎, 石野久彌, 他

シーリングファン併用空調システムの計画手法と性能検証, 自然換気・シーリングファンを併用した空調換気システムの制御手法と性能評価に関する研究 第 2 報, 日本建築学会環境系論文集, No. 620, pp. 59-66, 2007

大熊涼子, 石野久彌, 中山哲士

夏期のオフィスにおける 28℃空調の熱的快適性に関する研究, 日本建築学会環境系論文集, No. 618, pp. 31-36, 2007

大熊涼子, 石野久彌, 中山哲士

冬期 20℃室温における着衣と熱的快適性に関する研究, 日本建築学会環境系論文集, Vol. 73, No. 625, pp. 307-312, 2008

S. Sasaki, H. Ishino, K. Kobaysshi and Y. Kitsutaka

Exterior Refurbishment Techniques in Various Thermal Environments, Building Stock Activation 2007, pp. 213-220, 2007

S. Kiyoto, H. Ishino, Y. Kitsutaka, et. al.

A Study on the Facade Design for Activating Renewal of Buildings Addressing Various Thermal Environments, Building Stock Activation 2007, pp. 221-226, 2007

T. Mizutani, S. Hori, S. Fukao, H. Ishino and N. Ichikawa

A Study on the Water Supply System in Consideration of Apartment Housing Renovation, Building Stock Activation 2007, pp. 305-312, 2007

Y. Kitsutaka, H. Ishino, K. Kobayashi and T. Sasaki

Facade Design for Activation Renewal of Buildings Addressing Various Thermal Environments in Japan, SB08MED, Athens Greece, 2008

## 2. 口頭発表

石野久彌

開会挨拶・総括、環境に配慮した建築のコラボレーションー建築と設備の一体化ー、建築一体化空調委員会第一回シンポジウム（北大）、日本建築学会、2007

石野久彌

総括、不都合な真実と建築（環境工学の立場から）、建築一体化空調委員会第二回シンポジウム（千葉大）、日本建築学会、2007

石野久彌

建築・空調を中心とした BEST の最新情報、BEST 第 6 回中間シンポジウム、日本建築学会大ホール、(財) 建築環境・省エネルギー機構、2007

石野久彌

BEST 専門版の最新情報、BEST 第 7 回中間シンポジウム、新宿住友ホール、(財) 建築環境・省エネルギー機構、2007

石野久彌、中山哲士、大山美衣

都市気候に関する調査研究、第 17 回イブニングセミナー（立教大学）、日本ヒートアイラ

ンド学会, 2007

石野久彌

総合討論座長、どうする！建築設備への要求性能—その作り方・あり方・そして検証—、第3回建築設備シンポジウム、日本建築学会, 2007

石野久彌

環境にやさしい都市と建築づくり、日本女子大学, 2007

石野久彌

環境建築のその先へ、基調講演、環境建築の実現に向けた協働と役割、北海道支部特別企画事業シンポジウム, 2008

鳥原大嗣, 石野久彌, 中山哲士, 田端康宏

Google Earth による世界大都市の緑被率に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1223-1224, 2007

小林信裕, 郡公子, 石野久彌

入射角特性を考慮した一般窓日射遮蔽性能値の実用的推定法: 第1報 ブラインド非使用時の性能とブラインド使用時の拡散日射に対する性能, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1317-1318, 2007

郡司智昭, 郡公子, 石野久彌

入射角特性を考慮した一般窓日射遮蔽性能値の実用的推定法: 第2報 ブラインド使用時の直達日射に対する性能, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1319-1320, 2007

清登智, 石野久彌, 橘高義典, 他

環境建築におけるファサードデザインに関する調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1363-1364, 2007

小澤諭, 石野久彌, 他 2007 風速変動が気温に及ぼす影響に関する実測研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1405-1406

佐藤豊, 石野久彌, 郡公子

移動実測による宇都宮市の外気温度分布特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1407-1408, 2007

田端康宏, 石野久彌, 他

移動実測による山手線圏内気候実態調査 (その2) 冬季早朝、夏季早朝、夏季日中の外気温度形成要因の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1409-1410, 2007

大山美衣, 石野久彌, 他

東京圏気象観測地点における観測特性の実態調査に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1411-1412, 2007

西田志津華, 石野久彌, 中山哲士

地上観測における紫外放射量の特性研究 その1 東京のUV-A・UV-B 特性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1413-1414, 2007

中山哲士, 石野久彌

地上観測における紫外放射量の特性研究 その2 紫外放射量の簡易推定法, 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2, pp. 1415-1416, 2007

村上周三, 松尾陽, 坂本雄三, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発(その1) BEST 開発の背景と趣旨, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(OS), pp. 1969-1972, 2007

野原文男, 村上周三, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発(その2) 行政支援ツールへの適用, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(OS), pp. 1973-1976, 2007

石野久彌, 村上周三, 赤坂裕, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発(その3) 建築・空調システムの計算体系, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(OS), pp. 1977-1980, 2007

丹羽勝巳, 村上周三, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発(その7) ソフトウェアテスト手法, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(OS), pp. 1993-1996, 2007

坂本滋, 村上周三, 木下泰斗, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発(その12) 壁体材料および窓ガラスの物性値データベースの構築, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(OS), pp. 2013-2016, 2007

郡公子, 村上周三, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発(その

13) 熱負荷・室内環境のシミュレーション法, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 (OS), pp. 2017-2020, 2007

芝原崇慶, 村上周三, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発 (その 14) 熱負荷・室内環境のケーススタディ, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 (OS), pp. 2021-2024, 2007

一ノ瀬雅之, 村上周三, 井上隆, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発 (その 15) 昼光利用および日射遮蔽制御の計算法, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 (OS), pp. 2025-2028, 2007

長井達夫, 村上周三, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発 (その 16) 空調システムのシミュレーション手法, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 (OS), pp. 2029-2032, 2007

菰田英晴, 村上周三, 石野久彌, 他

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発 (その 17) 中央式空調のケーススタディ, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 (OS), pp. 2033-2036, 2007

柳井崇, 村上周三, 石野久彌,

外皮・躯体と設備・機器の総合エネルギーシミュレーションツール“BEST”の開発 (その 18) 個別式空調システムの計算法, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 (OS), pp. 2037-2040, 2007

鈴木隆, 郡公子, 小林愛子, 石野久彌

床冷房併用空調の熱環境・エネルギー特性のシミュレーション解析, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 217-220, 2007

郡公子, 石野久彌, 郡司智昭, 小林信裕

直達日射に対する一般窓日射遮蔽性能値の実用的推定法, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 369-372, 2007

石野久彌, 中山哲士, 西田志津華

雲の状態変化における紫外放射量の特性研究, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1135-1138, 2007

中山哲士, 石野久彌: 日射の短時間変動の地域性に関する研究  
空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1139-1142, 2007

大山美衣, 石野久彌, 中山哲士  
Google Earth を用いた世界気象観測地域の土地被覆特性に関する研究, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1143-1146, 2007

清登智, 石野久彌, 中山哲士  
基準屋外照度の持続性に関する研究, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集,  
pp. 1147-1150, 2007

大熊涼子, 石野久彌  
夏期のオフィスにおける着衣条件と温熱感覚に関する研究 軽装時のネクタイと室温変化  
による影響, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1231-1234, 2007

石野久彌, 中山哲士, 田端康宏  
周辺の土地利用形態に着目した外気温の推定に関する研究, 空気調和・衛生工学会大会学  
術講演論文集, pp. 2365-2368, 2007

#### 4. 研究報告

中山哲士  
都市と環境との調和, 首都大学東京 21 世紀 COE プログラム 都市建築空間多様性調和工学  
読本 ストック社会の都市建築学 第 2 章, pp. 48-53, 2007

#### 5. 解説・評論

村上周三、坂本雄三、石野久彌、他  
The BEST Program 開発 行政支援ツールを目指して、IBEC No. 163、Vol. 28-4, pp. 77-78,  
2007

村上周三、石野久彌、他  
The BEST Program の開発 (the Building Simulation Tool), 建築設備士、建築設備士技  
術者協会, 2007

石野久彌  
評価ソフト「BEST」省エネ性能映す鏡に、建設通信新聞「環境世紀を担う」元旦特集, 2008

石野久彌  
新たなソフトウェア時代へのプロローグ、コンピュータニュース、建築設備士、建築設備  
技術者協会, 2008



石野久彌、佐藤誠、他

熱負荷算定プログラム簡易法+CD、空衛学会 90 周年記念、空気調和衛生工学、  
Vol. 82, No. 3, 2008

#### 【市川憲良】

##### 1. 審査論文

赤井仁志 (ユアテック), 紀谷文樹 (神奈川大学), 岡田誠之 (東北文化学園大学), 市川憲良, 高柳 保 (ビル管理教育センター), 中村克彦 (東西科学産業), 池上 天 (同人科学研究所)

浴槽水での DPD 法と SBT 法による遊離残留塩素濃度の測定法に関する研究 空気調和・衛生工学会論文集, No. 122, pp. 1-8. 2007

前 真之 (東京大学大学院), 高須直子 (日本女子大学), 鍋島美奈子 (大阪市立大学), 市川憲良, 飯尾昭彦 (日本女子大学), 鎌田元康 (神奈川大学)

住宅における給湯日消費量の季節・短期変動 日本建築学会環境系論文集, No. 622, pp. 73-80, 2007.

Takatoshi MIZURATANI (P. T. Morimura & Associates, Ltd.), Shizuka HORI (ZO Consulting Engineers Inc.), Seiichi FUKAO, Hisaya ISHINO and Noriyoshi ICHIKAWA

A Study on the Water Supply System in Consideration of Apartment Housing Renovation, Proceedings of Building Stock Activation 2007, pp. 305-312, 2007

##### 2. 口頭発表

水谷貴俊 (森村設計), 市川憲良, 紀谷文樹 (神奈川大学), 中村 勉 (須賀工業), 堀 静香 (Z O 設計室)

集合住宅における給水システムの更新計画・更新技術に関する研究 その 2 受水槽容量の実態調査 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-1 分冊, pp. 565-566, 2007.

水谷貴俊 (森村設計), 市川憲良, 堀 静香 (Z O 設計室), 紀谷文樹 (神奈川大学), 中村 勉 (須賀工業)

ストック活用を考慮した集合住宅における給水システムに関する研究—給水負荷の実態と機器容量— 空気調和・衛生工学会学術講演論文集, I 分冊 pp. 1-4, 2007.

Noriyoshi ICHIKAWA, Masayuki OTSUKA (Kanto Univ.), Yoshiharu ASANO (Shinsyu Univ.), Fumitoshi KIYA (kanagawa Univ.), Shizuka HORI (ZO Consulting Engineers Inc.) and Shin SUMIKAWA (Japan Environment Association)

A study on the Water saving Equipment for the Environment Label, CIB-W062 International Symposium, pp. 211-222, 2007.

##### 4. 解説・評論

市川憲良

直結給水方式の現状とこれから 建築設備と配管工事, Vol. 45, No. 11 pp. 53-54, 2007.

【須永修通】

1. 審査論文

Nobuyuki Sunaga, So Fujie and Tamaki Fukazawa

Thermal Insulation Improvement; Learning from Activation Projects by the TMU COE Program, Proc. of Building Stock Activation 2007 (International Conference of 21st Century COE Program of TMU), pp.25-32, 2007

Ryoko KURAKAZU, Jun UENO, Makoto TSUNODA, Kazuhiro KITAYAMA, Nobuyuki SUNAGA

A Study on Model Method of Japanese School Buildings Renewal and Conversion through the Actual Proposal Projects, Proc. of Building Stock Activation 2007 (International Conference of 21st Century COE Program of TMU), pp.137-144, 2007

Hitoshi OGAWA, Katsuhiro KOBAYASHI, Nobuyuki SUNAGA et al.

A Study on the Architectural Conversion from Office to Residential Facilities -Through Three Case Studies in Tokyo-, Proc. of Building Stock Activation 2007 (International Conference of 21st Century COE Program of TMU), pp.171-178, 2007

Kouichi TAMURA (External Insulation Promotion Council), Nobuyuki SUNAGA et al.

Proposal of Heavy Insulation for the Renovation of Apartment Housing Complex in Tama New Town for Energy Conservation and More Comfortable Living Environment, Proc. of Building Stock Activation 2007 (International Conference of 21st Century COE Program of TMU), pp. 423-430, 2007

Satoko MATSUMOTO, Nobuyuki SUNAGA and Tamaki FUKAZAWA

Measurement Analysis on Thermal Environment of Crowded Wooden-Housing Area for Improvement Proposal, Proc. of Building Stock Activation 2007 (International Conference of 21st Century COE Program of TMU), pp.449-454, 2007

深澤たまき, 須永 修通

居住者の環境調整行動を考慮した温熱性能評価方法, 日本建築学会環境系論文集, No. 617, pp. 81-86, 2007

2. 口頭発表

松本聡子, 須永修通

緩衝空間を持つ用途転用住宅の夏期の熱負荷低減効果に関する研究, 太陽／風力エネルギー講演論文集, pp.113-116, 2007

池澤知子, 須永修通

全国アンケート調査によるエコスクール認定校の実態把握, 太陽/風力エネルギー講演論文集, pp.117-120, 2007

築山祐子, 千葉陽輔, 須永修通

鉄骨 ALC 住宅の夏期室内温熱環境に関する研究, 太陽/風力エネルギー講演論文集, pp.125-128, 2007

松本聡子, 須永修通

都心の用途転用集合住宅における温熱環境改善に関する研究, 空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集 CD-G70, pp.2213-2216, 2007

横田歩, 須永修通

ライフステージ・スタイルを考慮した戸建住宅の断熱改修による LCCO2 削減効果に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.91-92, 2007

鈴木晶子, 須永修通, 藤江創, 横田歩

外断熱改修を施した RC 戸建住宅の夏期の温熱環境に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.93-94, 2007

太田望, 須永修通

生活環境実測調査による許容温度域の変化と熱的適応性の検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.371-372, 2007

近藤 薫子, 石原 修, 久保 隆太郎, 石田秀樹, 須永 修通

日本の 4 地域における生活環境温湿度の実測調査および暑熱順応に関する研究 その 1 生活環境温湿度および着衣量の実測概要と測定結果, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.373-374, 2007

岡本沙織, 須永修通

冷房を用いない学校教室の温熱環境改善に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.527-530, 2007

伊藤紗加, 須永修通

学校および自宅における児童・生徒の温熱環境実態調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp.531-534, 2007

### 3. 専門書

Richard Hyde (Univ. of Sydney) and Nobuyuki Sunaga

Bioclimatic Housing - Innovative Designs for Warm Climates - / Overview, Earthscan

(James & James), pp.1-17, 2007

Nobuyuki Sunaga, Motoya Hayashi (Miyagigakuin Woman' s Univ.), Ken-ichi Hasegawa (Akita Prefectural Univ.) and Tamaki Fukazawa  
Bioclimatic Housing - Innovative Designs for Warm Climates - / Chap.6 Tokyo: A warm Temperate Climate, Earthscan (James & James), pp.195-227, 2007

Richard Hyde (Univ. of Sydney) and Nobuyuki Sunaga  
Bioclimatic Housing - Innovative Designs for Warm Climates - / Chap.9 Design, Elements and Strategies / Integrated Design Principles, Earthscan (James & James), pp. 297-301, 2007

須永修通

学校建築を活かす - 学校の再生・改修マニュアル- (第4章 学校建築の環境性能向上), 首都大学東京 建築学専攻 21世紀COEプログラム, pp.35-46, 2007

藤江創, 須永修通

「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」作品集 In Box Project #01 - S邸改修工事-, 首都大学東京 建築学専攻 21世紀COEプログラム, pp.74-81, 2007

小林克弘, 須永修通, 他4名,

巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」作品集 蒲田Gオフィスビルのコンバージョン, 首都大学東京 建築学専攻 21世紀COEプログラム, pp.116-121, 2007

上野淳, 須永修通, 他5名

「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」作品集 SKD Project, 首都大学東京 建築学専攻 21世紀COEプログラム, pp.122-123", 2007

#### 4. 研究報告

小林克弘, 須永修通, 他5名

オフィスビルから集合住宅へのコンバージョン実現に向けた建築設計提案, 首都大学東京 建築学専攻 21世紀COEプログラム 平成18年度報告書, pp.22-23, pp.90-103, 2007

角田誠, 須永修通, 他9名

学校再生プロジェクト - 未来型学習空間の実現と校舎ストック建築の活用手法の検討-, 首都大学東京 建築学専攻 21世紀COEプログラム 平成18年度報告書, pp.30-31, pp.124-142, 2007

須永修通, 藤江創, 鈴木晶子, 横田歩

RC戸建住宅の外断熱改修, 首都大学東京 建築学専攻 21世紀COEプログラム 平成18

年度報告書, pp. 32-33, 2007

藤江創, 須永修通, 他 3 名

ユニット型断熱パネルによる空きスペースの賦活, 首都大学東京 建築学専攻 21 世紀 C O E プログラム 平成 18 年度報告書, pp. 35-35, pp. 144-149, 2007

深尾精一, 須永修通, 他 7 名

都市建築時空間多様性調和工学の枠組みの構築, 首都大学東京 建築学専攻 21 世紀 C O E プログラム 平成 18 年度報告書, pp. 44-45, 2007

小林克弘, 須永修通, ほか 5 名

オフィスビルから集合住宅へのコンバージョン実現に向けた建築設計提案, 首都大学東京 建築学専攻 21 世紀 C O E プログラム 平成 19 年度報告書, pp. 16-17, pp. 64-78, 2007

角田誠, 須永修通, 他 9 名

学校再生プロジェクトー未来型学習空間の実現と校舎ストック建築の活用手法の検討ー, 首都大学東京 建築学専攻 21 世紀 C O E プログラム 平成 19 年度報告書, pp. 24-25, 2007

深尾精一, 須永修通, 他 7 名

都市建築時空間多様性調和工学の枠組みの構築, 首都大学東京 建築学専攻 21 世紀 C O E プログラム 平成 19 年度報告書, pp. 30-31, 2007

## 5. 解説・評論

須永修通

自然快適建築の創造に向けて (1) 自然快適建築と人体の温熱快適性, 三菱化学グループの建築土木プラント設備ホームページ セミナーコーナー, pp. 1-3, 2007

## 6. 作品等

(環境建築設計)

須永修通ほか, RIPPLE KAMATA(集合住宅), 2008 年 3 月竣工

(環境配慮型建築設計コンサルト)

須永修通, 目黒区立目黒中央中学校, 設計:(株)千代田設計, 2008 年 3 月竣工

## 【永田明寛】

### 1. 審査論文

水出喜太郎(日建設計), 石野久彌, 郡公子(宇都宮大), 永田明寛, 長井達夫(東京理科大), 大高一博(日建設計), 大原千幸(日建設計)

自然換気・シーリングファンを併用した空調換気システムの制御手法と性能評価に関する研究 第 2 報 日本建築学会環境系論文集, No. 620, pp. 59-66. 2007

## 2. 口頭発表

永田明寛, 長井達夫(東京理科大), 黒木勝一(建材試験センター), 萩原伸治(建材試験センター), 市川大介(住友林業), 加藤信介(東大)

建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その4 熱流計を用いた熱板法(フィールドにおける検証実験) 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp. 85-86, 2007.

萩原伸治(建材試験センター), 黒木勝一(建材試験センター), 永田明寛, 長井達夫(東京理科大), 市川大介(住友林業), 加藤信介(東大)

建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その5 熱画像法(フィールドにおける検証実験) 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp. 87-88, 2007.

長井達夫(東京理科大), 永田明寛, 黒木勝一(建材試験センター), 加藤信介(東大)

建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その6 穿孔法 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp. 89-90, 2007.

高橋宏聡, 永田明寛

塀・フェンス・垣の開口率に関する実態調査 日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2 分冊, pp. 547-548, 2007.

長井達夫(東京理科大), 永田明寛, 黒木勝一(建材試験センター), 萩原伸治(建材試験センター), 加藤信介(東大)

建築部位の断熱性能実測法 日本建築学会第37回熱シンポジウム, pp. 45-50, 2007.

永田明寛

建築部材の熱特性の簡易モデリングと性能評価 日本建築学会第37回熱シンポジウム, pp. 139-144, 2007.

## 5. 解説・評論

永田明寛

遮熱フィルムとLow-Eガラスの分光特性の測定およびアトリウム空間における日射遮蔽効果の検討(櫻井希, 飯野秋成, 日下部征信)[評論] 日本建築学会技術報告集, Vol. 13, No. 26, p. 879, 2007.

## <戦略研究センター>

【青木茂】

### 1. 審査論文

青木茂

リファイニング建築-リファインからリファイニングへ- 土木構造・材料論文集, 第23

号, pp. 29-36. 2007 年

## 2. 口頭発表

青木茂／青木茂建築工房

佐賀県倫理法人会（社団法人倫理研究所）2007. 5. 17

青木茂／青木茂建築工房

未来図建設株式会社 2007. 5. 28

青木茂／青木茂建築工房

K A B A S E 特別講演会（九州橋梁・構造工学研究会）2007. 6. 29

青木茂／青木茂建築工房

株式会社東急コミュニティー 2007. 6. 30

青木茂／青木茂建築工房

日本建築学会集合住宅管理小委員会 2007. 7. 2

青木茂／青木茂建築工房

38期アーク都市塾「住宅ビジネス企画開発コース」（森ビル株式会社アカデミーヒルズ）  
2007. 7. 3

青木茂／青木茂建築工房

九州ビルヂング協会7月例会 2007. 7. 19

青木茂／青木茂建築工房

建築学会大会「集合住宅（団地）再生の社会システムを考える」（集合住宅管理小委員会）  
2007. 8. 30

青木茂／青木茂建築工房

九州工業大学工学部 特別講演会 2007. 9. 20

青木茂／青木茂建築工房

建築家大会 2007「ストックの時代へ」（日本建築家協会） 2007. 10. 19

青木茂／青木茂建築工房

「リファイン建築・・・居ながら施工の事例に学ぶ」（「マンション監査」の夢設計）  
2007. 10. 21

青木茂／青木茂建築工房

建築ストック賦活・更新会議（21世紀COEプログラム国際会議） 2007.11.6

青木茂／青木茂建築工房

日・韓・中建築士協議会ソウル会議（大韓建築士協會） 2007.11.13

青木茂／青木茂建築工房

全国賃貸住宅経営協会セミナー 2007.11.17

青木茂／青木茂建築工房

第39回アーク都市塾住宅ビジネス企画開発コース」（森ビル株式会社アカデミーヒルズ）  
2007.11.27

青木茂／青木茂建築工房

大分県造形教育研究大会杵築大会 2007.11.30

青木茂／青木茂建築工房

住宅産業研究会（株式会社住宅新報社） 2007.12.7

青木茂／青木茂建築工房

第29回集合住宅研究会（集合住宅研究会） 2008.2.6

## 5. 解説・評論

青木茂／青木茂建築工房

日刊建設通信新聞「リファイン見据えた新築 デコビルが完成」 2007.7.26

青木茂／青木茂建築工房

日刊建設通信新聞「内外装をバリューアップ 青木茂建築工房が設計・監理」 2007.10.4

青木茂／青木茂建築工房

住宅新報「注目集めるリファイン建築 環境対策の一助にも」 2007.12.18

青木茂／青木茂建築工房

建設通信新聞「福岡大生が研究発表会 青木茂工房」 2007.12.18

青木茂／青木茂建築工房

住宅新報「コンサル現場に行く③リファイン建築 新工法、着実に浸透 住民の合意点、ポイントに」 2008.2.12

青木茂／青木茂建築工房

日刊建設工業新聞「青木茂氏 首都大学東京戦略研究センター教授に就任 新たな研究テ



一マ追求し、ものづくりの大切さを教えたい」

青木茂／青木茂建築工房

朝日新聞「偏西風 大分県出身の建築家 青木茂」 2008. 2. 19

青木茂／青木茂建築工房

建通新聞「愛知県内初のリファイン建築「リベラほうしょう」が完成」 2008. 3. 3

青木茂／青木茂建築工房

建通新聞「青木茂が論文を講演 総会 リファイン建築研究会」 2008. 3. 3

青木茂／青木茂建築工房

住宅新報「住みながら増改築 愛知・築22年の賃貸マンション 青木茂建築工房が設計」  
2008. 3. 4

## 6. 作品等

青木茂／青木茂建築工房

Latvijas Architektura, Lilita 2007. 6

青木茂／青木茂建築工房

ロハウス, adc. 建築デザインセンター 2007. 7

青木茂／青木茂建築工房

ロハウス, adc. 建築デザインセンター 2007. 10

青木茂／青木茂建築工房

みらいえ、ネクスシンク・プロジェクト 2007. 8

青木茂／青木茂建築工房

公共建築, No. 193, (社) 公共建築協会 2007. 10

青木茂／青木茂建築工房

建築雑誌, 日本建築学会 2007. 11

## <都市空間システム>

【中林一樹】

### 1. 審査論文

覺知昇一, 吉川 徹, 中林一樹 2007 道路狭隘地域における隅切りの設置と小型消防車両の導入による旋回可能性の改善効果に関する基礎的考察, 日本建築学会計画系論文集, 第

619号 pp.125-132.

照本清峰（人と防災未来センター），中林一樹 2007 活断層情報を考慮した防災対策と住民の意識構造，地学雑誌，No.1012/1013（通巻），pp.524-535.

饗庭 伸，市古太郎，中林一樹 2007 首都直下地震に備える事前復興の取り組み—東京における震災復興対策と復興訓練から—，地学雑誌，No.1012/1013（通巻），pp.557-575.

佐藤慶一，中林一樹，翠川三郎，2007 首都圏大震災後の住宅喪失世帯の応急住宅選択モデルの構築，日本都市計画学会 都市計画論文集 No.42-3，pp.601-606.

市古太郎，饗庭 伸，佐藤隆雄（日本システム開発研究所），吉川 仁（防災&都市づくり研究室），中林一樹 2007 基礎自治体の計画発意能力向上に着目した都市復興図上訓練手法の改善と評価に関する研究—2006年度東京都都市復興図上訓練を通して—，日本都市計画学会 都市計画論文集 No.42-3，pp.607-612.

覺知昇一，中林一樹 207 密集市街地の隅切り整備による建物に対する接近可能性の改善効果，地域安全学会論文集 N0.9 pp.199-207.

星 旦二，市古太郎，高橋俊郎，栗盛須雅子（国際医療福祉大学），長谷川卓志，竹宮健司，秋山哲男，中林一樹 2007 都市在宅高齢者における災害時避難可能性の実態とスクリーニング関連要因，地域安全学会論文集 N0.9 pp.245-251.

## 2. 口頭発表

覺知昇一，吉川 徹，中林一樹 2007 密集市街地における隅切りと小型消防車両に着目した消防車両の到達可能性の改善，日本建築学会大会学術講演梗概集F-1，pp.569-570.

中林一樹 2007 東京直下地震に対する事前復興対策 日本地理学会春季学術大会シンポジウム「災害からの復興—地域復興の意義と備え—」予稿集.

Itsuki NAKABAYASHI 2007 Preparedness for Recovery and Reconstruction from the Next Tokyo Earthquake, Proceedings of the 2<sup>nd</sup> International Conference on Urban Disaster Reduction, Taipei, p.186. (in English)

Itsuki NAKABAYASHI 2007 Earthquake Vulnerability Assessment and Anti-earthquake disaster City Planning, Proceedings of the International Symposium on Sustainable Urban Environment, 2007, TMU, pp.102-107. (in English)

Keiichi SATO, Itsuki NAKABAYASHI and Saburo MIDORIKAWA 2007 An Experimental Approach to Predicting Housing Situation Following Urban Disaster, Fifth International Conference on Urban Earthquake Engineering, CUE TIT, pp.741-744. (in English)

佐藤慶一（東京工業大学），中林一樹，翠川三郎（東京工業大学）2007 首都圏大震災後の  
応急住宅対策シミュレーションに関する検討 首都圏大震災減災のための実践的都市地震  
工学研究の展開 平成19年度成果報告シンポジウム 予稿集，pp. 109-118.

### 3. その他

#### 3-1. 専門書

中林一樹 2007 大都市郊外地域のまちづくり活動と街づくり条例—条例制定過程から見た  
住民自治の仕組みとしての可能性—（羽貝正美編著）自治と参加・協働 pp. 220-258 学芸  
出版社.

#### 3-2. 研究報告

中林一樹，市古太郎，饗庭 伸（首都大学東京事前復興計画研究会）2008 震災があつての  
大丈夫な地域づくりをみんなで考えよう（その2）和と坂のまち」打越町旭が丘団地の地  
域協働復興模擬訓練の記録 八王子市打越町旭が丘団地地区地域協働復興模擬訓練報告書

市古太郎・饗庭 伸・中林一樹・高見澤邦郎・吉川 仁 震災復興まちづくり模擬訓練に  
よる地域協働型事前復興準備の可能性—新小岩地区における実践と参加者調査から— 市  
民の震災への備えと新潟県中越地震(2004年)における生活復興に関する調査研究 2007. 7,  
（財）都市美化協会・地域安全学会）pp. 49-72.

中林一樹・市古太郎・澤田雅浩 新潟県中越地震の災害特性と復興課題 市民の震災へ  
の備えと新潟県中越地震(2004年)における生活復興に関する調査研究 2007. 7,（財）都  
市美化協会・地域安全学会）pp. 73-86.

中林一樹，市古太郎 2008 練馬区都市復興マニュアル策定支援委託研究報告書

石川永子，中林一樹，池田浩敬（富士常葉大学），葉袋奈美子（福井大学）2008 宅地崩  
壊地区の住宅再建・生活回復に関する計画論的研究—中越地震災害での集団移転事業・宅  
地耐震化事業を中心に—，（財）住宅総合研究財団 研究年報 No. 34.

#### 3-3. 解説・評論

中林一樹 2007 阪神・淡路大震災 都市と地震防災 日本建築学会120年略史（建築雑誌 増  
刊 第122集第1556号 pp. 106-107.

中林一樹 2007 「スーパー都市災害」としての首都直下地震 減災 Vol. 2 pp. 29-37.

中林一樹 2007 首都直下地震の震災像と巨大都市防災の基本 都市計画 第267号 pp. 5-8.

中林一樹 2007 スーパー都市災害“首都直下地震”の被害軽減・復興戦略に関する考察 都

市科学研究 第1号 pp. 7-19.

中林一樹, 瀬野徹三 (東京大学) 2007 首都圏直下型地震と地震被害想定から見た震災像 地学雑誌, No. 1012/1013 (通巻), pp. 313-323.

中林一樹 2007 防災対策から見る「耐震」の社会技術化 建築とまちづくり, No. 355, pp. 6-9.

中林一樹 2008.3 越境する「まちづくり」と街づくり条例 翔 (HABATAKI) 第11号-2007- pp. 11-18

### 【玉川英則】

#### 1. 審査論文

玉川英則, 朴慶女 2007 二種類の住所表示体系での検索時間に関する比較実証分析 GIS-理論と応用, vol. 15-no. 1, pp. 13-22.

玉川英則 2007 再帰的過程と後背地の効果を組み入れた確定的ハフモデルによる圏域設定 都市計画論文集, No. 42-3, pp. 475-480.

#### 2. 口頭発表

玉川英則 2007 GIS (地理情報システム) の応用ー地域における課題解決に向けてー GIS セミナー, 国土交通省.

#### 3. その他

##### 3-1. 専門書

玉川英則 2008 都市・地域計画とGIS ビジネス・行政のためのGIS (村山祐司・柴崎亮介編) 第10章, 朝倉書店, pp. 128-138.

##### 3-2. 研究報告

荒木優, 玉川英則 2007 東京都区部における避難場所の圏域分析 地理情報システム学会講演論文集, vol. 16, pp. 331-334.

##### 3-3. 解説・評論

玉川英則 2007 「『筑波敷地条例』による敷地台帳の26年間の運用の変遷とその評価」 (河中俊) に対する評論 日本建築学会技術報告集, 第13巻-第26号, p. 887.

##### 3-4. 作品等

Hidenori TAMAGAWA 2007 Sustainable Cities: Japanese Perspectives on Physical and Social Structures, ISSUE2007 Poster Presentation.

### 【伊藤史子】

## 1. 審査論文

Yamashita, K., Ito, F., Kameda, K., Holloway, T. and Johnston, M. 2007  
'Cost-effectiveness Analysis of Reducing the Emission of Nitrogen Oxides in Asia',  
Water, Air, & Soil Pollution: Focus, Springer.

Fumiko Ito, Y. Yamazaki, A. Kamemoto, J. Kumagai, A. Kobayashi, Y. Iwamoto and E. sumi  
2007 The Value of Niigata Machi-ya Activation -Estimation Using CVM and Questionnaire  
Survey. Proceedings of Building Stock Activation 2007, 367-374.

## 2. 口頭発表

杉谷和彦, 藤岡泰寛, 伊藤史子 2007 DEWKS女性の就業特性と居住特性の変容過程に関する  
研究 日本建築学会大会学術講演梗概集, F分冊, 1457-1458.

## 3. その他

### 3-3. 解説・評論

伊藤史子 2007 住生活基本法と不動産情報 不動産研究, 49巻1号, 13-18.

## 【市古太郎】

### 1. 審査論文

市古太郎, 饗庭伸, 佐藤隆雄, 吉川仁, 中林一樹 2007 基礎自治体の計画発意能力向上  
に着目した都市復興図上訓練手法の改善と評価に関する研究—2006 年度東京都都市復興  
図上訓練を通して— 日本都市計画学会学術研究論文集 42, pp. 607-612.

### 2. 口頭発表

Taro ICHIKO , Shin AIBA, Takao SATO and Itsuki NAKABAYASHI 2007 A preparing  
measure for long term building environment recovery in Tokyo -A report of urban  
planning staff training in Tokyo municipalities - ,2nd ICUDR, Taipei

市古太郎, 粕谷巧, 中林一樹 2007 『総合的な学習』としての小学校区地域安全マップづ  
くりの事例報告—多摩NTにおけるS小学校を事例として— 地域安全学会梗概集 No. 20,  
pp. 71-74.

### 3. その他

#### 3-2. 研究報告

市古太郎 2007 移転復興と現地復興の境界を見据えて—トルコ・アダパザルの移転復興  
からみた都市復興戦略の多元化— 都市計画 NO. 267, pp35-38.

#### 3-3. 解説・評論

市古太郎 2007 都市計画研究の現状と展望：都市開発 都市計画 NO. 269, pp. 83-87.

## <都市社会システム>

## 【星 旦二】

### 1. 審査論文

星 旦二, 市古太郎, 高橋俊彦, 栗盛須雅子, 長谷川卓志, 竹宮健司, 秋山哲男, 中林一樹 都市在宅高齢者における災害時避難可能性の実態とスクリーニング関連要因 地域安全学会. 9, pp245-251

高橋俊彦, 長谷川卓志, 星 旦二 都市高齢者の外出行動を決定する身体的健康, 社会参画に関する構造解析 医学と生物学 N0151, pp258-264

### 2. 口頭発表

星 旦二 都市高齢者におけるかかりつけ歯科医師の実態と三年後の累積生存率との関連 第13回日本行動医学会学術総会 pp245-251

Hoshi Tanji, Ryu Shinu, Fujiwara Yoshinori, Kurimori Sugako. Urban Health and Determinant Factors for Longer Life for the Elderly Urban Dwellers in TOKYO Proceedings of the International Symposium on Sustainable Urban Environment . pp61-66.

Ai Bin, Gyokuren Tomoyama, Junichi Okado, Sakurai Naoko, Tanji Hoshi: A Comparative Study on the Influence of Self-rated health toward the Prognosis between Japanese and Chinese Urban Elderly. Proceedings of the International Symposium on Sustainable Urban Environment. pp55-60.

### 3. その他

#### 3-1. 専門書

星 旦二編著 公衆衛生 医学書院

#### 3-3. 解説・評論

星 旦二 明るく, 楽しく, ゆたかに生きる: 健康長寿の誘い~生涯現役のすすめ~ 健康日本. 4. 4-7

星 旦二 明るく, 楽しく, ゆたかに生きる: PPKとNNK, どちらが望ましい? 健康日本. 5. 4-7

星 旦二 明るく, 楽しく, ゆたかに生きる: 健康寿命を高めた町の10年間の試み健康日本. 6. 4-7

星 旦二 明るく, 楽しく, ゆたかに生きる: 生きがいと前向きに生きる理論と科学的根拠. いきいきした健康づくりを支援する. 健康日本. 7. 4-7

星 旦二 明るく，楽しく，ゆたかに生きる：主観的健康感は何に規定される？

健康日本. 8. 4-7

星 旦二 明るく，楽しく，ゆたかに生きる：社会ネットワークがいきいきとした生活を実現する 健康日本. 9. 4-7. 2007

星 旦二 明るく，楽しく，ゆたかに生きる：外出を維持するための秘訣は財布を自己管理すること. 健康日本. 10. 4-7

星 旦二 明るく，楽しく，ゆたかに生きる：いきいきした健康づくりを支援する

健康日本. 11. 4-7. 2007

星 旦二 明るく，楽しく，ゆたかに生きる：楽しくいきいきした健づくりの根本は「夢」.

健康日本. 12. 4-77

#### 【羽貝正美】

##### 2. 口頭発表

Masami HAGAI 2007 La grande ville au Japon : conflits entre l'Etat et la ville (modernisation du système d'administration et modernisation de l'espace public ), Colloque La ville mal aimée (Cerisy-la-Salle). Le texte de communication est accessible en ligne sur site du colloque : <http://www-ohp.univ-paris1.fr/>

##### 3. その他

###### 3-1. 専門書

羽貝正美 (編著) 2007 自治と参加・協働ーローカル・ガバナンスの再構築 学芸出版社

羽貝正美 (監修) 2007 平成大合併 新潟県の軌跡 新潟日報事業社

###### 3-2. 研究報告

羽貝正美 2007 震災復興と都市空間の近代化ー震災復興土地区画整理を手がかりにー都市問題 (後藤新平生誕 150 周年記念 8 月号特特別増刊) 東京市政調査会, pp. 53-63.

羽貝正美 2007 ポスト市町村合併の自治体の課題ー求められる「自治体合併白書」：誰が何をどう評価するかー, 新潟自治, vol. 33, pp. 5-9.

#### 【饗庭 伸】

##### 1. 審査論文

饗庭伸, 内海麻利, 桑田仁, 野澤千絵, 真鍋陸太郎, 米野史健 2007 都市計画・まちづくり分野における構造改革特区制度の実態分析ー都市計画法・建築基準法を対象としてー,

日本都市計画学会大会論文集, 第42-3号, pp. 331～336

長野基, 饗庭伸 2007 東京都区市自治体における都市計画審議会を媒介にした法定都市計画過程と議会の関係性の分析 日本都市計画学会大会論文集, 第42-3号, pp. 235～240

Shin Aiba, Taro Ichiko, Itsuki Nakabayashi, Jin Yoshikawa Community-training program for community based urban reconstruction - Through four years of practice in Tokyo 2007, Proceedings of the 2nd International Conference on Urban Disaster Reduction, pp. 23-28

## 2. 口頭発表

饗庭伸 2007 まちづくりファンドの現在と課題 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp. 959～960

## 3. その他

### 3-1. 専門書

饗庭伸, 西田司 他 2008 Re-city 都市建築賦活更新メソッドケーススタディ, 首都大学東京21世紀COEプログラム 巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成

饗庭伸, 加藤仁美, 鈴木伸治, 伊達美徳, 根上彰生, 柳沢厚他 2008 初めて学ぶ都市計画, 市ヶ谷出版

饗庭伸, 秋山宏 他 2007 日本建築学会叢書3 都市建築の発展と制御シリーズⅢ 都市建築のかたち, 丸善



#### 4. 特定学術研究（平成19年度）

研究者	件数	金額・種目・題目・企業名等
寄付金による研究		
上野 淳（代表）	1	
芳村 学（代表）	1	
橘高義典（代表）	1	
北山和弘（代表）	1	
永田明寛（代表）	1	
受託研究費による研究		
永田明寛（代表）	1	
中林一樹（代表） 市古太郎（分担）	2	練馬区・八王子市 6500千円
産学共同研究費による研究		
芳村 学（代表）	1	
吉川 徹（代表） 玉川英則（分担）	1	（株）ソフマック
提案公募型研究費による研究		
橘高義典（代表）	1	平成19年度高経年化対策強化基盤整備事業（経済産業省・原子力安全保安院）：原子炉建屋コンクリートの健全性の微視的評価方法に関する研究、研究代表者：橘高義典、17,766千円
田村雅紀（代表）	1	トステム建材産業振興財団
中林一樹（代表） 市古太郎（分担） 饗庭 伸（分担）	1	首都直下地震防災・減災プロジェクト 広域的危機管理・減災体制の構築に関する研究（研究代表者：林 春男京都大学教授） 地域・生活再建過程の最適化に関する研究（代表者：中林一樹） 分担課題：市民・企業・行政が共同する震災復興に関する研究 5,000千円
饗庭 伸（代表）	1	都市縮退時代の都市デザイン手法に関する研究，平成19年度国土政策関係研究支援事業（国土交通省国土計画局），1680千円
文部科学省科学研究費		
上野 淳（代表） 松本真澄（分担）	1	基盤B（一般），日本におけるニュータウン計画の系譜の総括と再生・活性化のための総合的研究
芳村 学（代表）	1	基盤B（一般），脆性的挙動を示す既存鉄筋コンクリート建物の耐震性評価の精密化に関する研究
橘高義典（代表）	1	基盤B（一般），生物科学的機能を有する新機能コンクリートに関する基礎的検討
山崎真司（代表） 見波 進（分担）	1	基盤C（一般），巨大地震時に予測される長周期地震動を受ける鋼構造超構想骨組の限界耐力の解明
北山和弘（代表）	1	基盤C（一般），連層鉄骨ブレースで補強したRC建物の三方向地震力下での耐震性能評価

須永修通（代表）	1	基盤C（一般），学校建築の設計基準改定に向けたエコスクール認定校の実態把握・性能評価
小林克弘（代表）	1	基盤C（一般），ルイス・サリヴァンの建築思想・造形手法に関する分析と作品の保存更新活用実態調査
角田 誠（代表）	1	基盤C（一般），公立小学校余裕教室の持続的活用を目指したコンバージョンシステムの開発研究
山村一繁（代表） 見波 進（分担） 中村孝也（分担） 吉川 徹（分担） 饗庭 伸（分担）	1	基盤C（一般），中小規模建築ストックの地震リスク評価およびその情報の地域共有化手法
中村孝也（代表）	1	若手研究（B），サブストラクチャ擬似動の実験による鉄筋コンクリート建物の中間層崩壊に関する研究
鳥海基樹（代表）	1	若手研究（B），フランス2000年都市連帯・再生法による基礎自治体主導の保全的刷新型都市計画－景観を特別扱いせず総合的都市計画の中で扱う計画技術と我国景観法への示唆
木下 央（代表）	1	若手研究（B），風景概念生成期の研究－東インド会社の交易都市スラトの英国人墓地の調査
田村雅紀（代表）	1	若手研究（B），コンクリート構造物の炭酸ガス固定化効果に関する基礎的検討
中林一樹（代表） 市古太郎（分担） 饗庭 伸（分担）	1	基盤B（一般），トルコにおける被災市街地の移転復興が現地復興に与えた影響と復興手法としての可能性
伊藤史子（代表）	1	基盤C（一般），研究題目：女性のライフスタイルと居住地選択の関連性に見る住宅需要の多様化の分析
市古太郎（代表）	1	若手研究（B），事前復興計画論に基づく防災まちづくり技術の リ・デザイン
羽貝正美（分担）	1	基盤B（一般），協働型社会構想における都市内分権ないしコミュニティ政策の法社会学的国際比較研究
饗庭 伸（代表）	1	若手研究（B），大都市圏を対象とした都市をたたむ計画技術に関する研究，600千円
その他		
饗庭 伸（代表）	1	トヨタ財団，3000千円
饗庭 伸（代表）	1	平和中島財団，1960千円

## 5. 学位論文リスト（平成19年度）

【博士論文】 建築学専攻

学位取得者	論 文 題 目
柳澤一希	地域施設の需要構造分析と再整備の手法に関する数理的な研究
田原健一	連結制振構造の地震応答性状
千葉一樹	微小振動測定に基づく伝統的木造建築の構造性能評価に関する研究
佐藤弘美	接合部性能を考慮した伝統的木造住宅の構造性能評価に関する研究
Abdullatif Dawoud Zoya	Study on the Urban Transformation and the Contemporary Movements toward Sustainable Development of Old Saida, Lebanon (レバノン・サイダ旧市街の都市変容とその持続的発展のための取組みに関する研究)
深沢たまき	居住者の温熱快適性に基づく建築の性能評価方法
加藤田歌	多摩ニュータウン団地居住高齢者の生活像と居住環境整備に関する研究
水出喜太郎	建築と融合した設備計画による低環境負荷建築の実践と性能検証に関する研究

【博士論文】 都市科学専攻

学位取得者	論 文 題 目
覺知 昇一	密集市街地の防災性改善を目的とした隅切り整備による消防車両の接近性向上効果に関する研究

【修士論文】 建築学専攻

学位取得者	論 文 題 目
足立 真吾	路上現象からみた都市空間の記述手法に関する研究—音、表面温度、色温度を題材として—
足立 理恵	既存学校建築の総合的性能向上のための改修設計手法に関する研究
池澤 知子	アンケート・実測調査によるエコスクール認定校の実態把握
内原 英貴	地方都市における人口社会増減の分析と評価 —浜松市と金沢市を例として—
大野 亮介	集合住宅における戸別改修工事の構工法計画と施工組織に関する研究
大山 美衣	メソスケールモデルによる首都圏熱環境解析
岡本奈留美	旧本庁舎の部分転用における企画プロセスに関する研究
川原 桃子	統合新設の教科教室型中学校における学校運営の実態と生徒・教師の意識・評価—下関市立豊北中学校のPOE調査
越野 達也	温熱環境シミュレーションに基づく緩衝領域に着目した都市型住居の設計プロセスの提案
佐々木隆允	既存木造共同住宅・長屋の耐震性能評価に関する研究 —実測調査と耐震補強工事に基づく考察—
沢田 聡	時間推移に伴う居住空間の様相変化に着目した設計提案
鈴木絵里加	中高層建築物の外壁構法の実態調査及び地震被害に関する意識調査 —東京神田地域を中心として—
鈴木 謙生	平成19年能登半島地震で被災した輪島市内の伝統的木造建築物の調査研究 —耐震性能と被害の関係についての考察
高畑 憲介	街路空間の拡張性に着目した都市空間の記述に関する研究
田中 亜希	住宅の維持管理における建築専門工事業者の参画方法に関する研究 —東京都多摩市の畳、建具、塗装業に着目して—
田端 康宏	環境配慮型建築の室内外気候特性に関する研究
筒井 保孝	建物の用途別価値とコンバージョンの連関について —東京都千代田区を対象として—
永作 智也	定着型補強筋を用いた古いRC柱の耐震補強に関する研究

中沼 弘貴	連層鉄骨ブレースで補強された RC 骨組の水平 2 方向地震力下における耐震性能評価
中村健一郎	御岳山山上集落における御師宿坊建築の実態とその変容過程に関する調査研究
西田志津華	地上観測における波長別日射の特性研究
羽田 和樹	鋼梁のエネルギー吸収能力に及ぼす繰返し载荷履歴の影響
馬場 章子	繰返し地震動を受ける木造軸組戸建住宅の耐震性能評価
樋沼 綾子	幼保一体型施設の建築計画に関する研究 - 活動場面の展開と園児のなじみの過程に着目して
福中 海人	アメリカにおけるコンバージョン設計手法の分析
藤澤 祐介	活動場面の展開からみた学童保育施設の建築計画に関する研究
増子 洋	ストック活用による都市型コレクティブハウジング - I アpartmentコレクティブ改修プロジェクト -
松尾 淳	内外装材としての国産針葉樹合板の現状と需要拡大の可能性に関する研究
松野 互吾	フェリックス・キャンデラの形態理論と建築造形
松本 聡子	建築ストック改修時に設ける緩衝空間の住環境改善効果
宮崎裕ノ介	PC 構造における PC 鋼材-グラウト-シースの付着特性に関する研究
宮部 貴寛	産業系施設からの転用におけるデザイン手法 - 近年の 6 ヶ国の事例を対象として -
中島 航	伊東忠太の建築作品にみる「日本的なるもの」について

【修士論文】 都市システム科学専攻 (\*付きの2名は都市科学専攻)

学位取得者	論 文 題 目
清原 一紀	多摩ニュータウン近隣センター商店街の系譜と展望
乙黒 千鶴	都市部高齢者の主観的健康感と生きがいの関連要因研究
田中まゆみ	多摩ニュータウンにおける地域活動の展開 －母親層を中心とした文庫活動を事例として－
張 卓	大学生における主観的健康感に関する関連要因の日中比較研究
横田 典果	医療施設を対象とした環境性能評価手法の構築に向けた基礎的研究
猪野由起子	産褥期におけるアロママッサージの生理的・心理的効果の検討
数藤良太郎	集中治療病棟の療養環境整備のあり方に関する研究
姜 乃榮 *	中間支援組織の担う協働型ローカル・ガバナンス促進機能に関する研究 －多摩市、大和市の事例を中心に－
権 泳澤	韓日両国における事業者の災害対策に関する実態と意識の比較研究 －ソウル・東京の商工会議所会員事業者による調査を通じて－
荒木 優	東京都区部における避難場所の空間的圏域構成に関する研究
金田 正史	可搬式ポンプを用いた地震時の消火活動における水利と資機材の配置に関する研究 －東京都練馬区を事例として－
銭 峻云 *	上海を対象とした都市不動産の近年の変化とその要因に関する研究
寺島 博明	備蓄製品個体群の地震時転倒安全性に関する研究
石田 壮平	人間の歩行範囲に着目した市街地の階層的コンパクト性に関する研究 －福井市におけるケーススタディー－
松下 大輔	衝突変形を受けた鉄道橋鋼桁の残存耐荷力特性
王 永涛	バス走行地域における運行コストに着目したDRTの適用性に関する研究
宇都宮杏子	高齢者・女性及び障害者に配慮した路外駐車場の整備ニーズに関する研究
全 相俊	都市における高齢者・障害者の移動実態とSTSの利用対象者の特性に関する研究

